

新時代に対応した高等学校教育改革推進事業

研究報告書

【多様化した生徒の自己実現をサポートする工業教育の充実・改善】



(研究期間 平成19年4月～平成21年3月)

山梨県立甲府工業高等学校

目 次

はじめに

研究報告《多様化した生徒の自己実現をサポートする工業教育の充実・改善》

I	本校の概要	1
II	本校を取り巻く環境	2
	1 産業構造の変化	2
	2 少子高齢化	2
	3 高校入試制度改革	3
	4 産業界の期待	3
	5 中学校及び保護者の期待	3
	6 同窓会の期待	3
III	本校の課題と目指すべき姿	3
	1 分掌の活性化に向けた学校評価の活用	3
	2 スーパー甲府工業高校構想	4
	(1) 工業高校としての専門性の進化を図る教育の実践	4
	(2) 理工系国立大学進学に対応した教育の実践	4
	(3) 全国に通用する部活動の強化	4
IV	研究課題と概要	4
	1 教育課程の開発	4
	2 高校入試の対応	5
	3 学校組織の改善	5
	4 部活動の指導改善	5
V	研究の実際	5
	1 平成18年度の取り組み	5
	(1) 教員が学校の状況を知る機会をつくり、学校経営方針に基づいた教育活動を行なうよう動機付けを行う	5
	(2) 学校評価システムを学校運営の柱にできるように、教職員全体で学校評価システムを運用する	6
	(3) スーパー甲府工業高校構想を立案し、学校として今後取り組むべき内容の検討を行う	6
	(4) 教育課程の検討	6
	(5) 校務分掌の統廃合を検討	6
	2 平成19年度の取り組み	6
	(1) 校務分掌の統廃合を実施	6
	(2) 広報活動を充実する	6
	(3) キャリア教育の検討を行う	6
	(4) 基礎基本の徹底を図る取り組み	7

3	平成20年度の取り組み	7
	(1) 3年間を通じたキャリア教育の確立	7
	(2) わかる授業の研究と実践	7
	(3) 地域及び異校種との連携	7
	(4) 啓発のための講演会及び研修会の実施	7
	(5) 生徒と向き合うための時間確保	7
VI	研究の成果	8
VII	今後の課題	8
	1 産業界及び大学等と連携したものづくり教育の推進	8
	2 生徒が夢や目的を持てる教育活動の推進	9
VIII	エピローグ	9

実践報告

	(1) キャリア教育（スーパー甲府工業高校構想）要素展開図	10
	(2) キャリアプラン	11
	(3) 教育課程	13
	(4) 学校組織の改編	14
	(5) 委員会の推移	15
	(6) 教員研修	16
	(7) スポーツ講演会	18
	(8) 平成20年度部活動成績	20
	(9) 進路実績及び推移	22
	(10) 視察・調査	
	①大学進学進路開拓訪問	23
	②モデル校(先進実践校)視察報告	24
	(11) 資格取得及びジュニアマイスター取得推移	26
	(12) 企業意識調査	27
	(13) 学校指定事業(支援事業)	
	①特色ある高校づくり支援事業(高校教育課)	40
	②高校生インターンシップ推進事業(高校教育課)	42
	③サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト事業(文科省)	46
	④国語力向上実践事業(高校教育課)	47
	⑤地域産業の担い手育成プロジェクト事業(文科省・経産省)	49
	⑥産業財産権標準テキストの有効活用に関する 知的財産教育推進協力校(電子科主導事業)	55
	⑦高大連携事業(電子科主導事業)	56
	⑧国際交流事業(本校主導事業)	57
	平成19年度実践研究計画書	58
	平成20年度実践研究計画書	60

はじめに

校長 戸田 泰明

本校は、昨年、創立90周年を迎え、2万5千名を越える卒業生を輩出しています。県下の工業高校の基幹校として、校訓「質実剛健」のもと、学習活動と部活動の両立を目指すとともに「技術者となる前に人間となれ」を信条とする人間教育に取り組んでいます。特に、部活動は活発であり、野球部は、春・夏の甲子園に13回出場しています。また、弓道、自転車、新体操、ボクシング、卓球等が全国大会に出場して活躍しています。

進路状況は、就職と進学がほぼ半数となっており、就職は、ほとんどの生徒が県内企業へ希望通りに就職しています。進学は、4年制大学への希望者が増加する傾向にあり、特に国立大学工学部を希望する生徒への対応が喫緊の課題となっています。また、本校に入学してくる生徒も近年は多様化しており、大きな課題となっています。その対応の一つとして、中学校への広報活動を活発に発信することにより、本校の教育内容や、本校が求める生徒像について理解を得る努力をしています。

さて、本校は現在、新しい時代に対応した『スーパー甲府工業』構想を教育指導重点に据えて推進しております。工業教育の本質である専門教科の深化を図る「ものづくり教育」の推進、進学者が半数を超える現状から特に国公立の工業系大学を目指した指導体制と教育課程の改編を実施する「進学対応」、そして本校の特色である「部活動の強化」を三本柱とする甲府工業の将来構想です。この実践が工業高校として全国トップレベルを目指す学校づくりに繋がると確信し、教職員・生徒が一丸となって取り組んでいるところであります。

この構想を実現するためにも、確かな学力の向上を図り、「多様化した生徒の自己実現をサポートする工業教育の充実・改善」を実践研究課題として、これまで続けてきた研究に、生徒の実態に合った研究を加えて取り組んできました。特に、昨年度は、教育改革推進事業の取り組みを研究し、今年度は自己実現のための3年間を通したトータルキャリアプランの構築を目指した研究・実践に努めてまいりました。

この報告書は、先生方の2年間を通して研究と指導の内容をまとめたものであり、それぞれの研究成果を、今後も利用できる資料になると思っています。このように、学校として研究を積み重ねていく努力は、本校の教育の一層の質的向上に繋がるものであると確信いたします。

教育研究は、理論と実践の絡みでこそ成立するものだと思いますが、これからも研究や研修を強力に推進していただきたいと思います。

最後に本研究を進めるに当たり、御指導御援助いただきました山梨大学の榊原禎宏教授、山梨大学大学院の水口義久教授、山梨県立大学の堀井啓幸教授、山梨県経営者協会の一瀬茂夫参与をはじめ高校教育課の指導主事の先生方に感謝と御礼を申し上げ、報告書発刊の挨拶とさせていただきます。

平成 19 年度・20 年度 新時代に対応した高等学校教育改革推進事業 研究報告

多様化した生徒の自己実現をサポートする工業教育の充実・改善

山梨県立甲府工業高等学校 教頭 手塚芳一

I 本校の概要



大正 6 年 4 月に甲府市立甲府工芸学校として開校後、甲府市立甲府工業学校、県立甲府工業学校と改称され、昭和 23 年に山梨県立甲府工業高等学校として現在に至っている。平成 19 年に創立 90 周年を迎え、2 万 5 千余名の同窓生を有し、卒業生は地元産業界をはじめ各界で活躍している。卒業生には外交官や大学教授を始め、オリンピック選手や国会議員、現役のプロ野球選手や世界的に有名なプロダクトデザイナーなど、多くの著名人を輩し、工業高校という枠にとどまらず本県を代表する高等学校のひとつである。

現在、1 クラス 40 名の定員で、機械科 2 クラス、電気科 2 クラス、電子科 1 クラス、建築科 1 クラス、土木科 1 クラスの学年 7 クラスの構成で、790 名が在籍している。女子生徒も 62 名在籍しており、特に建築科と電子科に多い。

部活動は盛んで、県の高校総体では優勝か準優勝が常である。弓道部、自転車部、新体操部、柔道部、ボクシング部、卓球部などを中心にインターハイへも多くの部が出場している。特に野球部は昭和 32 年の春の甲子園選抜大会に初出場以来、夏の甲子園に 8 回、春の甲子園に 5 回と計 13 回出場

して県民に元気を与えている。部活動が盛んな学校として、県民の本校に対する期待は大きい。

同窓会は県内外に職域や地域の支部をもち、卒業生同士の交流を盛んに行っている。そのため結束は堅く、本校の教育活動に寄与するところは大きい。また地域産業を支えている同窓生も多く、本校生徒の就職率 100%の要因の一つでもある。そのため、本校に対する同窓生の期待も大きく、「質実剛健」を校訓に、「技術者となる前に人間となれ」を信条とする教育方針は綿綿と受け継がれ、昔ながらのバンカラな校風が保たれている要因でもある。



工業科の各科は本県の工業教育を支えてきたという自負と、これからの本県の工業教育を牽引していくという気概に満ちた特色ある教育を実践している。機械科は国の「地域産業の担い手育成プロジェクト」を推進するなかで、機械実習を中心にしたものづくりの基礎を叩き込む教育を実践している。電気科は、第二種電気工事士及び一種の国家資格取得を目指した技術者の育成に力を入れている。電子科は大学と協働した課題解決型実習を通し、高度な問題解決能力の育成に力を入れている。建築科は学外の実施する設計コンペの参加を通して、

目的意識の高揚と高度な技術の修得に力を入れている。土木科は学校外での実習を多く取り入れ、現実的な体験を通じたものづくり技術者の育成に力を入れている。



各科とも資格取得に力を入れており、技能士検定をはじめ国家資格を多くの生徒が取得している。それに伴い、全国工業高等学校長協会が主催しているジュニアマイスター制度のゴールドやシルバーの称号を受賞する生徒も年々増えてきている。

進路はここ数年、就職と進学がほぼ同数で推移している。しかしながら、その内訳を見ると、就職では県内の就職が殆どであったものが県外への就職者が少しずつではあるが増えてきている。進学者をみても、大学全入時代を反映してか大学への進学者が増えてきている。

韓国の清州機械工業高校とは 10 年以上の姉妹校交流を続け、生徒のホームステイを交互に行っている。また生徒同士によるインターネットを使った技術交流も行っている。本校の平成 21 年度修学旅行は韓国が予定されており、姉妹校との交流も計画されている。アメリカのハワイやオハイオ州の高校ともインターネットを利用した国際交流を行うなど、インターネットの教育活用には実績がある。

II 本校を取り巻く環境

1 産業構造の変化

もともと山梨県の産業構造は家族労働中心の産業構造であり、就業構造も農業、林

業、軽工業、商業、サービス業の就業比率が高いと言うのが特徴で、1980 年代の山梨県の高度成長を支えてきた製造業はその成長率の割には雇用の増加には直接つながっていない。

山梨の産業をみると、1990 年代以降の平成不況は産業構造にも大きな変化を与えた。それまでの重化学工業部門から IT 産業を支える電気機械部門の生産が増えてきた。また 1980 年代に誘致した企業は電気機械 66 企業、機械 24 企業、精密機械 19 企業、金属製品 16 企業に及び、これらの企業は知識（技術）集約型工業に適応し成長し、それに伴い雇用環境も県内製造業全体の 1/4 を占めるなど雇用も増加した。しかしながらここ数年、技術系人材不足を理由に、これらの企業を含め県内に本社を持つ企業もマザー工場を東北や九州に移転したり現工場を閉鎖し県外へ移転する企業が出てきている。更に、2008 年のアメリカを発端に世界中に広まりつつある金融不安の影響は、山梨の産業にもはかり知れないものがある。

2 少子高齢化

本県の合計特殊出生率は、平成 19 年で 1.35 と、人口を維持するのに必要な 2.07 程度を下回り、全国と同様に子どもの減少傾向が続いている。それに伴い、親の過保護や過干渉によって子どもの生活体験や自立が妨げられているといったマイナスの面が指摘されるようになった。また高齢者の人口は増加を続けており、65 歳以上の老年人口の割合は平成 17 年度の 4.6 人に 1 人から、平成 27 年度には 3.6 人に 1 人に上昇すると推計されている。

核家族化が進み平成 17 年度では 18 万世帯が核家族世帯である。更に父子家庭や母子家庭も増加し、それに伴い子育てやしつけに不安や悩みをもつ親が増えてきている。

3 高校入試制度改革

2006年に、およそ40年間続いた小学区・総合選抜制度が廃止され、すべての県立高校が全県一学区となった。工業高校はもとも全県一学区のもとで入試が行われていたが、甲府地区の普通科高校5校に志望が集中する恐れがあり、甲府の周辺校や専門高校は学校の特色を今まで以上に中学校へ周知する必要があった。また、推薦募集は中学校長推薦であったものが、前期募集の自己推薦制となり、後期募集と併せ受験機会が増え、高等学校側は教育方針や志願して欲しい生徒像などを明確に示す必要があった。また前期募集については、選抜方法に学校独自の自由度が認められるようになった。

4 産業界の期待

2007年問題を象徴するように、山梨県においても平成19年度は季節調整済みの有効求人倍率は1.0を超えていたが、平成20年度は世界的な金融不安の影響で1.0を大きく下回っている。事業規模をみても、県全体の事業所の98%が従業員数50人以下であり、約7割は4人以下の事業所である。本県に工場を置く企業が技術系人材不足を理由に工場を他県へ移設する動きがあるなか、技術系人材の育成は本県の喫緊の課題である。しかしながら、中小企業の若手の事業主は活発に異業種交流を行うなど産業活性化に力を入れており、地元の中小企業からは人材提供元としての工業高校への期待が大きい。

5 中学校及びその保護者の期待

本校に入学してくる生徒の約4割が大学進学を希望しており、専門学校を含めた上級学校への進学希望者は約6割を占め、中学生及びその保護者は大学進学までを視野に入れた進路選択の傾向が強く見られるようになった。また工業高校へ進学する理由として、資格取得が最も多く、実践的な技

術者育成への期待が大きいと思われる。昭和30年代の高度成長期に中堅技術者の育成を目的に工業高校が多く開校したが、最近工業高校の目的は将来のスペシャリストの育成へと移行しつつある。

6 同窓会の期待

本校は創立以来、2万5千余名の卒業生を輩し、その同窓会の組織は盤石なものがある。そのため、学校への支援は「もの」に限らず「精神的」な部分でもはかり知れないものがある。本校への期待は、健全な学校運営のもとに生徒が文武両道において山梨県を代表する工業高校生として、全国で活躍することである。特に部活動での活躍は同窓会のみならず県民の期待するところでもある。

Ⅲ 本校の課題と目指すべき姿

平成18年度に「将来構想検討委員会」を立ち上げ、前述の本校を取り巻く環境の変化をとらえた本校の今後のあるべき姿について検討した。

1 分掌の活性化に向けた学校評価の活用

工業科の各学科及び各分掌そして各委員会は、それぞれの課題に対して取り組んでいる。しかしながらその取り組みが分掌や委員会の閉じられた取り組みになってしまい、学校全体としての取り組みに繋がっていない。そのため学校として向かうべき姿と、各分掌や委員会のベクトルが必ずしも同一方向ではない傾向がみうけられた。

本校のビジョンを明確にすることにより、分掌や委員会の具体的に取り組むべき事柄が明らかになり、それに対し各分掌が自立的に計画的に実施できる。このシステムを学校運営に取り込むことにより、職員全員が学校運営に関わることができ、学校全体が活性化できる。

そのために、現在の業務分析を行い、分掌の統廃合と分掌が有機的に結びつき活動

できるように、現行の縦割りの分掌システムをネットワーク型の校内分掌組織へ変えていくための検討を行う。また、課題の発見とその共有を図るために、学校評価を学校運営のもう一つの柱とし、中間評価に基づいた評価項目の検討を学校全体で行い、常にチェック&アクションのスピーディーな対応ができるようにした。

2 スーパー甲府工業高校構想

生徒の進路の多様化、地元の産業界に資する人材の育成という工業高校としてのミッション、及び県民を元気づける部活動の活躍を基本に本校のあるべき姿を「スーパー甲府工業高校」構想としてつぎのようにまとめた。

(1) 工業高校としての専門性の深化を図る教育の実践

工業高校として「地域産業に資する人材の育成」は不易なこととして、今後も力を入れていかなければならない重要な要素である。しかも本校は本県の工業教育を支える要として、より高度な技術や技能を身に付ける教育を推進していかなければならない。これが本校の使命と考える。

(2) 理工系国公立大学進学に対応した教育の実践

先に述べたように生徒や保護者の大学進学の希望は年々高まってきている。国公立大学においても専門高校枠を別途もうけ、工業高校からの受け入れに道を開いている。この制度を利用した進学者も増え、大学側も目的意識の高さから工業高校からの進学者に期待を寄せている。また、私立大学からは本校在校生以上の数の指定校推薦を頂いており、これからは量より質の向上を図った教育を行い、生徒の自己実現を目指す必要がある。

(3) 全国に通用する部活動の強化

本校は、野球部をはじめ各部のもつ力は県の代表レベルであり、インターハイへも

多くの部が出場している。しかしながら、全国大会で常勝する力が十分でない。県民の期待に応えられるよう、また県民の活力になるよう、全国レベルで十分通用する部活動の強化に力を入れる。

IV 研究課題と概要

少子化や高学歴志向の影響で、工業科単独校は減少傾向にあり、入学してくる生徒のニーズも多様になってきている。こうした変化に対応するため、より高度な専門教育、理工系国公立大学の進学を目指した教育、授業改善及び部活動の活性化などを通して、生徒の自己実現をサポートするための工業教育の充実・改善を進める。

1 教育課程の開発

「基礎・基本の理解」と「専門教科の深化に対応した教育課程」及び「大学進学希望者に対応した教育課程」の開発を行う。全国の先進校を視察し、その学校の特色ある学校経営方針と教育課程の運用について研究を行う。その結果、本校の物理の授業時数が5単位と少なかった（多い工業高校では9単位）ため、7単位に増加した。また、専門教科と普通教科の選択を6単位から倍の12単位に増やし、2年生から選択を実施した。そのため、1年生の3学期には将来の方向（進学か就職）を大まかに決定せざるを得ないため、キャリアガイダンスを1年次に厚くする必要がある。また1年生全員がインターンシップに参加できるよう計画する。

- ①自由選択科目の設定に向けた研究と実践
- ②企業実習の検討と教育課程上の位置づけの研究と実践
- ③基礎・基本の理解とわかりやすい授業の実践
- ④履修単位数の増加（90単位から94単位へ）に向けた研究

2 高校入試への対応

2006年から小学区・総合選抜制から全県一学区制に移行し、前期入試（自己推薦）と後期入試の2回の受験対応となった。特に前期入試では学校裁量の幅が拡大し、面接の他、作文や個性表現及び特技の採点方法について、高校裁量となった。その他、高校側は教育方針や志願して欲しい生徒像などを明確に示さなければならなくなり、学校の教育方針に沿った、志願して欲しい生徒像について十分な検討を行わなければならない。

①前期募集（自己推薦）の選考方法の検討

3 学校組織の改善

教員の負担感を無くし、より効率的な学校運営が可能となるような分掌システムの検討を行う。そのために、業務分析を行い、今までの縦型の組織からプロジェクト型の学校運営組織に改めるための研究と新組織への改編を行う。

①プロジェクト型学校運営組織の研究と新組織への改編

②学校評価結果を学校改善へ生かすための手法及び組織の研究と実践

4 部活動の指導改善

限られた時間をいかに有効に使い練習に生かしてくべきか、過去の指導方法にとらわれない、生徒の実態にあった指導方法の研究を行う必要がある。

①効率的な指導方法の研究

V 研究の実際

平成18年度と19年度は校内に「将来構想検討委員会」を設置し、そこで課題を洗い出し、ビジョン策定を行った。また課題解決とビジョンを実現するための具体的な取り組みの検討と、そのスケジュール管理及び分担する分掌及び委員会の進捗管理も行った。更に平成20年度は、運営委員会を企画・運営委員会へ改組し、学校全体の方

針についての討議や各事業の進捗管理及び課題等の検討を行った。

新時代に対応した高等学校教育改革推進事業の実施にあたっては、本校の担当者の他、外部の学識経験者や教育委員会の指導主事をメンバーにした「新時代に対応した高等学校教育改革推進協議会」を設置し、本校の実践の進捗状況の管理及び助言を頂いた。

平成18年度は本校の目指すべきビジョンの策定に力を入れ、「スーパー甲府工業高校」構想を立ち上げた。

平成19年度は全員参加の学校運営を目指し、校内分掌組織の改編を行い、学校評価を活用した課題抽出と分掌毎に対応策の検討を行った。分掌の責任を明確にし、具体的な検討を行うことにより、所属職員の学校運営参画への意識を高めた。

平成20年度は生徒と向き合う時間を確保するため、放課後の会議を極力少なくする取り組みを行った。そのため分掌の自立的な活動を促し分掌同士が有機的に活動することにより、今まで委員会で検討していた内容を分掌で消化することができた。また、今まで学年・学科・教科が独自に行っていた進路指導を、体系的にまとめ、学校全体として取り組む「3年間を通したキャリア教育プログラム」の検討を行い、生徒の自己実現に努めた。

1 平成18年度の取り組み

(1)教員が学校の状況を知る機会をつくり、学校経営方針に基づいた教育活動を行うよう動機付けを行う

①4月当初に校長より示された学校経営方針に基づき、職員会議等を利用し教育目標や今年特に力を入れて取り組む事項を決め、保護者宛のリーフレットの作成を行った。

②中学生向けのハイスクールガイドを本校

の教育活動が見えるように内容を刷新した。

(2) 学校評価システムを学校運営の柱にできるよう、教職員全体で学校評価システムを運用する

①学校評価委員会を年7回実施し、学校教育目標や学校経営方針に基づく重点項目や具体的な取り組み内容について、分掌会議や職員会議等で課題を共有する取り組みを行った。

②項目毎の評価に重みを付け、数値で評価の度合いがわかるように工夫し、評価の低い項目については、分掌毎にその分析と手立てを示すようにし、職員会議を利用して職員のコンセンサスを得るようにした。

③今までの評価項目がアンケート項目になっていたため、学校評価が適切に行えるよう評価項目を再検討した。

④学校評価の流れが学校運営の中にしっかりと位置づけられるように、年間行事計画の中に明記した。

⑤全職員を対象に学校評価と同時に学校改善に向けたアンケートを実施し、学校評価に現れない課題や問題点を洗い出した。

⑥学校評価結果のまとめと対策を簡潔にまとめ、ホームページに公開した。

(3) スーパー甲府工業高校構想を立案し、学校として今後取り組むべき内容の検討を行う

①「専門性の深化」「大学への進学対応」「部活動の強化」を本校の特色にあげ、全国レベルの工業高校になるための改革に着手した。

②先進校視察を行い、その内容に基づいた校内研修を実施し、具体的に取り組むべき内容を検討した。

(4) 教育課程の検討

①専門科目と普通科目の選択科目を12単位に拡大し、各科目の順序性や連携について検討を行い、次年度（平成19年度）の入

学生より実施することが決定した。

②2学期制については、9月の入社試験や部活動の各種大会の実施時期等を考慮すると本校には適さないとの結論になった。

③履修単位数を現行の90単位から94単位に拡大することについて、検討の余地はあるが、選択科目数の拡大が定着した後の検討課題となった。

(5) 校務分掌の統廃合の検討

①分掌の業務分析を実施し、特定の教員に業務が集中しないようにし、教員の負担感を減らす検討を行った。

2 平成19年度の取り組み

(1) 校務分掌の統廃合を実施

①13あった分掌を7つに統合し、各分掌にグループを配し、分掌主任の下にグループリーダーを置いた。このことによって、分掌主任の指示系統を明らかにし、責任を持たせることができた。

②新たに、総務部と教育相談部を設置し、教務部と生徒指導部の負担軽減を行い、生徒へ手厚い指導ができるようにした。

(2) 広報活動を拡充する

①学校要覧を見やすくし、企業や中学校等へ配付できる内容に改訂した。

②学校案内リーフレットを、斬新なものに改訂した。

③PTA新聞を発刊した。

④学校のロゴ入りクリアファイルを作成し、広報活動に利用した。

⑤教職員全員による中学校訪問を実施し、本校の教育活動の理解を求めた。

(3) キャリア教育の検討を行う

①1年生の希望者にインターンシップを実施した。

②校長及び3学年主任による国立大学の訪問を行い、専門高校に対する要望と入試情報を入手し、報告会を実施するなど教職員の意識改革に努めた。

③学年及び学科で行っていた進路指導の実態を調査し、体系的な取り組みについて検討を行った。

(4) 基礎基本の徹底を図る取り組み

①1年次の学習意欲を高めるため、中学校の教科書を調査し、スムーズに高校の授業について行けるよう研究した。

②赤点（評価1）を持ったまま仮進級する生徒が非常に多かったため、定期テスト前後の指導を徹底し追認試験の実施時期の検討を行い、年度内に追認試験を実施することになった。

3 平成20年度の取り組み

(1) 3年間を通したキャリア教育の確立

①1年生全員にインターンシップを実施した。

②学年、学科で独自に行っていた進路指導を進路指導部に進学対応と就職対応の担当を置くことにより、計画から実施に至るまで一元管理することにした。



③学校の3年間を通した進路指導計画を明確にし、教職員のみならず生徒及び保護者にも本校の進路指導の取り組みについて理解してもらった。

④各学年に対応したキャリアガイダンスを実施した。

⑤年間を通じた大学進学者向けの補習計画を立案し、実施した。

(2) わかる授業の研究と実践

①生徒の質を保証し、そして生徒が活用できるシラバスを目的にその改訂に着手した。

②1人の教員が30人の授業の参観を目標に、教員相互の授業参観を実施し、授業の質の保証に努めた。

(3) 地域及び異校種との連携

①生徒会による山梨園芸高校との花卉栽培の交流を通し、校内植花活動を推進した。

②本校生徒が製作した作品を増穂商業高校の実施したショップで展示・即売し、工業高校の教育活動の広報に努めた。

③近隣の商店街のお祭りに協力し、学校の教育活動の広報に努めた。

(4) 啓発のための講演会及び研修会の実施

①飯室芳男氏（本校OB、オリンピック選手）、鈴木徹氏（パラリンピック選手）によるスポーツ講演会を実施した。



②西林克彦氏（宮城教育大学教授）による、わかる授業に関する教員研修会を実施した。

③堀井啓幸氏（山梨県立大学教授）による、学校運営の在り方について教員研修会を実施した。

④遠藤俊郎氏（山梨大学教授）による、部活動の効果的な指導方法について教員研修会を実施した。

⑤川邊修作氏（認定カウンセラー）による、教育相談に関する教員研修会を実施した。

(5) 生徒と向き合うための時間確保

①20あった委員会を6つに減らし、自立的な分掌活動を促した。

②放課後の会議の開催数を前年度の70%に減らした。

③教育相談部の活動のひとつとして、スクールカウンセラーを積極的に活用し、生徒の心の悩みに対応した。

VI 研究の成果

ビジョンを新たに設定し、学校運営組織を改め、新しい学校の方向性を定めて動き出すためには、大きなパワーと時間を必要とする。しかしながら、この3年間に学校の目指すべき新たな方向性を定めることができ、そのための課題解決に向け校内組織を改編し、研修を重ねることにより、教員の意識も少しずつ変わってきた。幸いに、平成19年度と20年度は国の「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業」の指定を受け、県教委をはじめ学外からも貴重な意見と示唆を得ることができたことは大きい。

改革初年度の平成18年度から19年度にかけては、校内組織の改編や今迄とは異なった流れの中で、教員も生徒も一旦ニュートラルの状況に帰らざるを得なく、学校全体の活動も力を蓄える時期となった。しかしながら平成19年度後半からは、新たに向かうべき学校の姿に、教員と生徒のベクトルが少しずつ向き始め力が発揮されてきた。平成19年度の進学実績も地元の山梨大学へ8名が合格し、平成20年度は名古屋工業大学や信州大学へも合格した。資格取得においても成果が現れ、平成19年度は全国工業校長会が認定するジュニアマイスターに前年度の約3倍の34名が認定された。部活動においても、平成20年の5月に実施された県高校総体は準優勝し、秋の新人戦では弓道部、柔道部、自転車部、新体操部が



優勝し、卓球部、バレーボール部が準優勝した。

野球部は春と秋の関東大会出場を果たし、バレーボール部は平成21年春の全国高校バレーボール大会（春高バレー）の出場を果たすなど、過去にない活躍をしている。

「スーパー甲府工業高校」構想を押し進めていくなかで、構想実現に必要なことは「生徒の自発的な活動とやる気」であることに教員が気づき、学校全体で取り組むべき柱を「3年間を通したキャリア教育」に置いて、自発的な活動とやる気を育むキャリア教育プログラムの研究を学校全体で取り組むことで、教員の意識を同じベクトルに向かわせることができた。そして、このことが短期間に数値的な成果を出せた大きな要因となった。

今後、「3年間を通したキャリア教育」を柱に新たな教育課程を実施し、その成果が出るのは現1年生が卒業する2年後の平成23年になる。それまでは、今の流れを大切に押し進めて行く必要がある。

VII 今後の課題

1 産業界及び大学等と連携したもののづくり教育の推進

「専門性の深化を図る教育」の実践を展開するなかで、産業界及び大学等との連携は不可欠である。現在も国の「地域産業の担い手育成プロジェクト」に選定され、企業実習や高度熟練技能者による実習指導を受けたりしている。また近隣の大学や産業技術短期大学等と課題研究のテーマに沿った協働作業を行う取り組みや、資格取得をテーマにした連携について検討を行っている。しかしながら、これらの取り組みは一部の科に限られているため、今後全校的な取り組みに展開していく必要がある。また、知的財産教育を推進し、将来の知的財産創造立国を担う人材の育成にも力を入れ

る必要がある。

2 生徒が夢や目的を持てる教育活動の推進

個に応じた教育課程の研究や実践を通して生徒の自己実現を図ることは、生徒に夢や目的を持たせるひとつの手段である。また、勤労観や職業観をしっかりと身に付けさせ、将来の目標を明確にするために、キャリア教育プログラムの確立とガイダンス機能の充実は欠かせない。

Ⅷ エピローグ

ここ3年間の「スーパー甲府工業高校」構想の設定とそれに向けた取り組みは、教職員全体の協力と生徒の努力が無ければ為し得なかったことである。まだ、面舵を切ってやっと進み始めた段階であるが、これからはばらくは定めた方向に邁進するばかりである。いろいろ課題は出てくると思われるが、子どもたちの明るい未来を信じ、子どもたちが自信をもって生きていけるよう、必要な力を身に付けさせていく必要がある。

最後に、「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業」の指定を受け、様々な方からご示唆やご指導を頂く機会を得られことに、感謝を申し上げます。

参考：

① 本校のホームページ

<http://www.kofu-th.ed.jp/>



本校のホームページは、リアルタイムに更新され、その内容及び体裁について高い評価を得ており、本校の活動状況を知ることができる。

② クラフトマン21（本校の活動状況）

<http://www.kofu-th.ed.jp/craftsman21/index.html>

實踐報告

甲府工業高校キャリア教育の流れ

山梨県立甲府工業高等学校



進路計画 2009

学年	月	関連行事	懇談・面接	講習会・検定	課外等	模試等
1年	4月	学年集会 科集会			建築設計競技に参加するため早朝課外(A科) 3級計算技術検定勉強会(C科)	実力診断テスト(外部) (第1回)
	5月	進路希望調査(進路に対する意識付け)			第二種電気工事士筆記試験課外	
	6月		教育相談	第二種電気工事士筆記試験 レタリング技能検定(A科) 3級技術検定試験(C科)	放課後課外開始(数・英)(~3月)	
	7月	学年集会		外部講師による講話(総合学習) 第二種電気工事士技能試験講習会 第二種電気工事士技能試験 総合学習講習会(T科)	第一種電気工事士筆記試験課外	
	8月	インターンシップ オープンキャンパス参加 科集会			夏期特別課外(数・英) 第三種電気主任技術者試験課外	
	9月			第三種電気主任技術者試験 第一種電気工事士筆記試験	第一種電気工事士筆記試験課外	
	10月	進路希望調査(進路に対する意識付け) 現場見学(A・C科) 工業部会製図コンクール(A科)		資格取得のための早朝学習会(A科)		実力診断テスト(外部) (第2回)
	11月	山梨テクノフェア見学(T科) 東日本建築教育研究会製図コンクール(A科)			第一種電気工事士技術試験課外	
	12月	進路説明会(保護者対象) インターンシップ 学年集会 高大連携研究成果発表会(T科) 課題研究発表会(A科)		第一種電気工事士技能試験 大工技能検定講習会①(A科)	公務員課外開始(外部)(~8月)	
	1月	進路選択・推薦条件(推薦条件の説明) 課題研究発表会(見学)		大工技能検定講習会②(A科)		
2月	出前授業(C科)				実力診断テスト(外部) (第3回)希望者	
3月	インターンシップ 学年集会		測量士補講習会(3/28まで)	春季特別課外(数・英)		
2年	4月	学年集会 科集会		測量士補講習会早朝講座	建築設計競技に参加するため早朝課外(A科)	実力診断テスト(外部) (第1回)
	5月	進路希望調査(進路に対する意識付け)		測量士補資格試験	第二種電気工事士筆記試験課外	
	6月		教育相談	第二種電気工事士筆記試験 レタリング技能検定(A科)	放課後課外開始(数・英)(~3月) 2級土木施工管理技術検定への取り組み(C科)	
	7月	学年集会 大学の出前授業(神奈川工科大学 T科)		第二種電気工事士技能試験講習会 第二種電気工事士技能試験 製図技能検定A級(A科)	第一種電気工事士筆記試験課外	
	8月	インターンシップ希望者 オープンキャンパス参加 科集会			夏期特別課外(数・英・物理) 第三種電気主任技術者試験課外	
	9月			第三種電気主任技術者試験 第一種電気工事士筆記試験	第一種電気工事士筆記試験課外	
	10月	進路希望調査(進路に対する意識付け) 工業部会製図コンクール(A科)		資格取得のための早朝学習会(A科)		実力診断テスト(外部) (第2回)
	11月	大学の出前授業(日本工業大学 A科) 東日本建築教育研究会製図コンクール(A科)			第一種電気工事士技術試験課外	
	12月	進路説明会(保護者対象) 学年集会 課題研究発表会(A科)		文章力向上ガイダンス 高度熟練技能者講習(M科) 第一種電気工事士技能試験 大工技能検定講習会①(A科)	公務員課外開始(外部)(~8月)	
	1月	進路選択・推薦条件(推薦条件の説明) 課題研究発表会(見学)		大工技能検定講習会②(A科)		
2月	企業見学(全科) 職場実習 出前授業(C科)				実力診断テスト(外部) (第3回)希望者 作文模試	
3月	学年集会		測量士補講習会(3/28まで)	春季特別課外・作文課外		
3年	4月	科集会 進路希望調査・資格調査 (6月の教育相談の資料及び履歴書等の活用するため) 履歴書記入方法指導(1回目)		測量士補講習会早朝講座	放課後予備校課外 (数・英・物理・小論文)(~11月) 建築設計競技に参加するため早朝課外(A科)	実力診断テスト(外部) (第1回)
	5月	進路説明会 進路選択・推薦条件(推薦条件の説明)		測量士補資格試験	進学者早朝課外開始(~11月) 第二種電気工事士筆記試験課外	小論文模試(第1回)
	6月	建設現場見学会(C科)	教育相談	第二種電気工事士筆記試験 レタリング技能検定(A科)	2級土木施工管理技術検定への取り組み(C科)	進路模試(進学者・就職者別対応) (第2回)
	7月	求人受付・企業訪問 学年集会 履歴書記入方法指導(2回目) 大学の出前授業(神奈川工科大学 T科) 大学訪問報告研修会(5国立大学の推薦入試の調査報告)	模擬面接講習会	小論文ガイダンス (外部講師による書き方指導) 第二種電気工事士技能試験講習会 第二種電気工事士技能試験 製図技能検定A級(A科)	第一種電気工事士筆記試験課外	小論文模試(第2回)
	8月	3年登校日・科集会 オープンキャンパス参加 就職者進路推進委員会(就職者の推薦決定) 就職関係書類提出(就職者履歴書提出) 就職希望企業見学 ものづくりコンテスト県内大会・体験学習(C科)			夏期特別課外(数・英・物理・小論文) 山梨大学受験者課外(~11月) 1学期欠点補充課外 第三種電気主任技術者試験課外	
	9月	就職関係書類発送 進学者進路推薦委員会(進学者の推薦決定) 就職試験開始(9/16) ものづくりコンテスト関東ブロック大会	外部講師による進路模擬面接 科独自模擬面接(各科) 進路相談	第三種電気主任技術者試験 第一種電気工事士筆記試験	小論文指導(~11月) 第一種電気工事士筆記試験課外	進路模試 (第3回)進学者の希望者
	10月	熱処理(M科) 職場見学(M科) 工業部会製図コンクール(A科)	指定校推薦模擬面接指導			
	11月	東日本建築教育研究会製図コンクール(A科)	指定校推薦模擬面接指導	2級技術検定(A科)	第一種電気工事士技術試験課外	
	12月	学年集会 高大連携研究成果発表会(T科) 課題研究発表会(A科)	4年制大学合格者生徒父兄懇談会	第一種電気工事士技能試験 大工技能検定講習会①(A科)		
	1月	学年末試験に対する説明(欠点が予想される生徒への指導) 外部団体表彰規定(外部からの表彰の確認) 職場見学(M科) 科内課題研究発表会(各科)		金融に関する講義 (クレジット・金融に対する講義) 大工技能検定講習会②(A科)	2学期欠点補充課外	
	2月			社会人になるための実践講座 年金に関する講義	大学進学者フォローアップ課外	
	3月	卒業式				

実践報告書資料

(1)教育課程の開発について

① 自由選択科目の設定(12単位)

- ・平成19年度入学生以前の教育課程 選択科目 3年次 6単位(数学Ⅲ 4単位、英語Ⅱ 2単位)
- ・平成20年度入学生以降の教育課程 選択科目 2年次 4単位(数学A 2単位、ライティング 2単位)
3年次 8単位(数学Ⅲ 4単位、物理Ⅱ 2単位、生活英語 2単位) 合計12単位
- ・就職・進学・資格取得 等 あらゆる進路選択に対応できる教育課程を目指した。
- ・就職希望の生徒については、より深化した専門教科の教育を目指し、資格・技能・技術を身につけ、将来のスペシャリストを育成することを目的とした。
- ・進学希望者については、大学等の入学試験、入学後の基礎科目の対応を考え、2年次より数学、英語3年次より、数学、物理、英語の選択科目の単位を増加させた。
- ・平成20年度入学生である現在の本校1年生は、合計3回にわたり、保護者を交えて選択科目説明会を開き2年生からの選択の意義や進路実現に向けたキャリア教育の流れを説明した。

平成19年度入学生以前の教育課程																														
時間数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1学年	国語総合②	世界史A②			数学Ⅰ④			物理Ⅰ①	体育②	保健①	美術Ⅰ②	オーラル①	英語Ⅰ②	家庭基礎②	専門教科⑨											総合①	LHR①			
2学年	国語総合②	地理A②			数学Ⅱ④			物理Ⅰ②	体育②	保健①	オーラル①	英語Ⅰ②	専門教科⑬											LHR①						
3学年	専門	現代文③	現代社会②	理科総合②	体育③	専門教科⑥					専門教科⑬											LHR①								
	選択					数学Ⅲ④	英語Ⅱ②																							



平成20年度入学生 以降の教育課程																														
時間数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1学年	国語総合②	世界史A②			数学Ⅰ③			理科総合②	体育②	保健①	美術②	英語Ⅰ③	家庭基礎②	専門教科⑨											総合①	LHR①				
2学年	専門	国語総合②	地理A②	数学Ⅱ④	物理Ⅰ③	体育②	保健①	オーラル②	専門教科④	専門教科⑨											LHR①									
	選択					数学A②	ライティング②																							
3学年	専門	現代文③	現代社会②	体育③	専門教科⑧					専門教科⑬											LHR①									
	選択					数学Ⅲ④	物理Ⅱ②	英語生活②																						

平成20年度 校内組織及び主營業務

H18		平成19年度		平成20年度	
No	分掌名	分掌名	グループ	分掌名	グループ
1	教務	教務(主任)	教務	教務部(主任)	教務
2	生徒指導	生徒指導(主事)	生徒指導	生徒指導部(主事)	生徒指導
3	進路指導	教育相談(主任)	教育相談	教育相談部(主任)	教育相談
		進路指導(主事)	進路指導	進路指導部(主事)	進路指導
4	生徒会	生徒会(主任)	生徒会	生徒会部(主任)	生徒会
5	保健	保健・環境防災(主事)	保健(G/L)	保健・環境部(主事)	保健(G/L)
6	環境防災		環境防災(G/L)		環境防災(G/L)
7	体育		国際交流(G/L)		広報・国際交流(G/L)
8	涉外		涉外(G/L)	総務部(主任)	涉外(G/L)
9	厚生		厚生(G/L)		厚生(G/L)
10	教養		企画・広報		朝読書、図書館、文化公演
11	研修	研究・研修(主任)	教養(G/L)	研究・研修(主任)	朝読書、図書館、文化公演
12	研究		研修(G/L)	研究(G/L)	教員の研修計画
13	教育情報	情報システム管理(主任)	システム管理	情報システム管理(主任)	研究(G/L)
			視聴覚		研究(G/L)
14	1学年	1学年(主任)	視聴覚(G/L)	1学年(主任)	ネットワーク機器の運用管理、コンピュータ室の運用管理、ホームページ維持管理、ヘルプデスク
15	2学年	2学年(主任)		2学年(主任)	視聴覚機器の維持・運用管理、学校紹介ビデオ等の作成
16	3学年	3学年(主任)		3学年(主任)	総合学習、スキー教室、学年運営
17	機械科	機械科(主任)		機械科(主任)	修学旅行、インターンシップ、学年運営
18	電気科	電気科(主任)		電気科(主任)	進路指導、学年運営
19	電子科	電子科(主任)		電子科(主任)	科運営
20	建築科	建築科(主任)		建築科(主任)	インターンシップ、コンテスト、課題研究発表会、工業教育部会関係
21	土木科	土木科(主任)		土木科(主任)	課題研究発表会W/G
				体育部	実施要綱の検討、協力者(保護者)への対応、当日の運営
				12	体育

委員会について

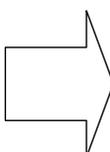
1 平成20年度の委員会(委員会の推移)

平成19年度		
	委員会	分掌
1	運営委員会	教務部
2	学校評価委員会	教務部
3	学校評議委員会	総務部
4	将来構想検討委員会	総務部
5	研究委員会	研究・研修部
6	情報システム管理委員会	情報システム管理部
7	後援会事務局役員	生徒会部
8	インターンシップ推進委員会	進路指導部
9	課題研究発表WG	工業科
10	サイエンスパートナーシップ WG	研究・研修部
11	ボランティア推進WG	生徒会部
12	総合学習推進WG	1学年主任



平成20年度	
委員会	分掌
各分掌で検討し、 企画・運営委員会で審議、 職員会議で議決する。	

13	教育課程委員会	教務部
14	入学者選抜委員会	教務部
15	進路推薦委員会	進路指導部
16	生徒指導委員会	生徒指導部
17	学校安全衛生委員会	保健・環境防災部
18	学校保健委員会	保健・環境防災部
19	いじめ不登校WG	教育相談部
20	修学旅行検討WG	3学年主任
21	強歩大会WG	体育科担当
22	クラフトマン21推進委員会	機械科



教育課程研究委員会	教務部
* 入学者選抜委員会	教務部
* 進路推薦委員会	進路指導部
生徒指導委員会	生徒指導部
学校安全衛生委員会	保健・環境部
学校保健委員会	保健・環境部
特別支援教育委員会	教育相談部
* 修学旅行検討WG	3学年主任
* 強歩大会準備WG	体育部
クラフトマン21推進委員会	クラフトマン21担当主任
授業力向上推進員選定委員会	教頭

* は、必要な時期に委嘱、会議を行なう。

学力の現状・その脆弱さ・それへの対応

2008.9.5

宮城教育大学 西林 克彦

§ 学習、学習指導についての基礎事項

☆条件付け心理学における学習

結合、強化因、漸進的 → 練習・経験、賞罰・動機づけ、理解ではない

☆認知心理学における既存知識の機能

付け足して理解、外界探索の道具

☆既存知識の発動

学習しやすいものとし難いもの、マッチング、精緻化

☆学習指導

教師による外界探索の道具の提案、知識は道具

☆終わりのない探求

2つの「わからない」、第Ⅰ種：知らなくてわからない状態

第Ⅱ種：知識を使って pinpoint にわからなくなれた状態、ここに誘えば動く

§ 子どもの実態と学習指導について

☆学力中間層

典型的課題と非典型的課題、奇妙な手がかり、ex. 小数、計算

☆脆弱な学力

ex. 文章題、耳塚他(2003)、藤村(2004)の日中比較データ

☆子どもの学習への姿勢

公式の羅列的暗記と機械的適用→メタ認知の無さ、理解や原理より手続きや解法 ex. 平均

☆できる子とできるように見える子の違い

ex. 三角関数の学習 →面積の各種公式、繰り上がり・繰り下がり、「みはじ」はマズイ

☆応用のできる知識形態

「色々ある」は教育の敵 ex. 動物のくらしとからだ、海藻

☆道具としてのクリアな論理

ex. 3年理科「光」、反射と吸収と透過、吸収の時のみ暖かくなる、レンズ

ex. 5年社会「日本の国土」

☆教育言説を考える

基礎基本とは、問題解決学習の成立する条件、ドリルに終始してよいのか

目的と手段の混同、自ら学ぶ力、自由→興味→活動→定着？

【精緻化の例】

肥った男	錠を買った	裸足の男	梯子を登った
強い男	友達を助けた	貧しい男	博物館に入った
禿げた男	新聞を読んだ	歯の抜けた男	コードを差し込んだ
背の高い男	クラッカーを買った	目の見えない	袋を閉じた
腹の減った男	ネクタイを買った	親切な男	牛乳瓶の蓋を開けた
背の低い男	はさみを借りた	眠い男	水差しを持っていた
色の白い男	サングラスを買った	年取った男	財布から金を出した

第 2 回校内全体研修会のご案内

「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業」の1つに「教職員の研修」があります。昨年度は、多くの先生方の参加を得て「学校マネジメント研修」を2回に分かれて実施しました。学校評価の「教職員が意欲的に取り組める環境である」という評価が低く、学校経営にすべての先生方が参加するという意識が大変重要であるという結果が出ています。今回の研修は、建築設計の手法を用いて学校経営のグランドデザインを行うという新たな試みです。

日時：平成 20 年 8 月 21 日（木）午前 10 時から 12 時

会場：視聴覚室

内容：学校経営のグランドデザイン

講師：堀井啓幸 (Horie Hiroyuki)

山梨県立大学人間福祉学部 教授

専門分野：教育経営学(教育環境論)

平成 19 年度管理職研修で「学校評価のシステム化と教育現場の課題」というテーマで講演していただきました。

タイムテーブル：

10:00-10:10	開会式（校長挨拶，講師紹介）
10:10-11:40	研修
11:40-12:00	閉会式（質疑，お礼の言葉，アンケート）

平成20年度 スポーツ講演会

生徒会部

目的 本校の三本柱の一つである「部活動を積極的に推進し全国トップレベルの工業高校を目指す」という教育目標を達成するために、本スポーツ講演会を開催する。

日時 平成20年 7月 9日 (水)
時間 4校時 LHR
(12時15分～13時40分)

会場 甲府工業高校 体育館

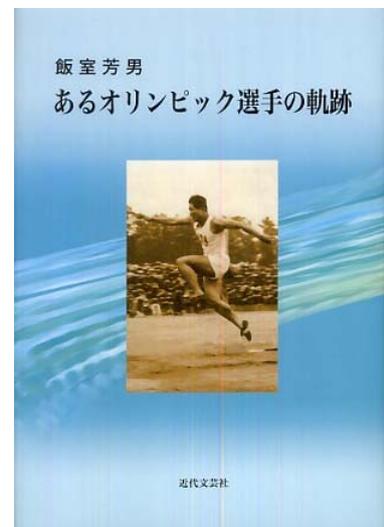
対象者 全校生徒 ・ 全教職員

内容



1) **飯室 芳男** 氏 (本校OB)
紹介・VTR・あいさつ

- ・本校スポーツ大会で優勝クラスに贈られる「飯室杯」寄贈の本人
- ・ヘルシンキオリンピック
陸上競技 三段跳 6位入賞者
- ・先月 著書出版
本校図書館へ2冊寄贈いただいた。



2) 義足のハイジャンパー
鈴木 徹 氏 による 講演
『挫折と挑戦』

- ・高校時代、ハンドボールで国体3位入賞。筑波大学への入学が決まっていた。卒業直前に仲間とドライブへ出かけた。免許は取得したばかりだった。早朝、意識はもうろうとしていた。鈍い音と鋭い衝撃で目が覚めた。目を開くと腹にガードレールが突き刺さり、右脚は見えなかった。
- ・走り高跳びとの出会い…
- ・シドニー、アテネ、北京
3連続パラリンピック
出場決定



3) 両氏へ応援団による激励

平成20年度 第2回スポーツ講演会

生徒会部

- 目 的 本校の三本柱の一つである「部活動を積極的に推進し全国トップレベルの工業高校を目指す」という教育目標を達成するために、本スポーツ講演を開催する。
- 日 時 平成20年12月16日(火)
- 時 間 4校時(12時30分～13時40分)
- 会 場 甲府工業高校体育館
- 対象者 全校生徒・全職員
- 内 容 サッカー日本代表コーチ 大木 武 氏による講演

演 題 「スポーツを通して思うこと」

◎講師略歴

- ・指導者；富士通・清水コーチ⇒第一期甲府監督⇒清水監督⇒第二期甲府監督⇒日本代表コーチ
- ・第一期甲府監督；2002年。J2当時、チームの成績も経営状態も良くなかった甲府を12チーム中7位まで引き上げることに成功した。
- ・第二期甲府監督；2005年。甲府の監督に復帰、自身の求めていた攻撃的サッカーが実を結びJ2シーズンを3位で終了。J1との入れ替え戦で2戦2勝を収め、J1昇格へ導く。翌年もこのスタイルを継続。横浜マリノス、鹿島アントラーズ、ガンバ大阪といった強豪に勝利しJ1残留を果たす。
- ・日本代表コーチ；A代表の監督に就任した岡田武史に誘われコーチに就任し2010年ワールドカップ出場を目指している。

総合体育大会結果のまとめ

種目	順位	得点
陸上・駅伝	総合9位	1
空手	第5位	
弓道	第3位	3
剣道	1回戦敗退	
サッカー	第5位	2
山岳	オープン参加	
自転車	優勝	3
柔道	男子:第2位 女子:第2位 個人7人関東大会出場	5 (1)
硬式テニス	2回戦敗退	
新体操	個人総合 1位 駒井直之	
卓球	第3位	5
ソフトテニス	3回戦敗退	1
バスケットボール	ベスト8	2
バドミントン	第4位	2
バレーボール	準優勝	5
ハンドボール	第6位	
ボクシング	学校対抗 優勝	3
ラグビー	合同チームにて参戦	
合計順位	総合2位	32(1)

新人戦の結果のまとめ

陸上・駅伝	総合5位
空手	団体:ベスト8
弓道	優勝
剣道	第7位
サッカー	
自転車	優勝
柔道	男子:優勝 女子:優勝
硬式テニス	団体3位
新体操	個人総合 1位 甘利 大樹 2位 高橋 大晴
卓球	準優勝
ソフトテニス	1回戦敗退
バスケットボール	ベスト8
バドミントン	ベスト8
バレーボール	準優勝
ハンドボール	ベスト8
ボクシング	バンタム級 ライトウェルター級 関東選抜大会出場権獲得
ラグビー	合同チームにて参戦

全国選手権大会予選のまとめ

サッカー	3回戦敗退
ラグビー	第3位
柔道	男子:第2位 女子:優勝(全国大会出場決定)
自転車	新人戦の結果にて選考(全国大会出場決定)
弓道	優勝(全国大会出場決定)

春の高校バレー県予選

バレーボール	優勝(全国大会出場決定)
--------	--------------

野球部

第60回春季関東地区高校野球山梨県大会			
2回戦	甲府工 7 - 0	帝京三(7回コールド)	
3回戦	甲府工 10 - 5	甲府商	
準々決勝	甲府工 17 - 0	大月短大付(5回コールド)	
準決勝	甲府工 3 - 6	東海甲府	
3位決定戦	甲府工 6 - 0	富士学苑	

第60回春季関東地区大会			
1回戦	甲府工 5 - 1	桐生一	
2回戦	甲府工 7 - 6	聖望学園	
準々決勝	甲府工 3 - 6	木更津総合(延長11回)	

全国高校駅伝県予選

陸上・駅伝	第8位
-------	-----

関東大会結果のまとめ

陸上・駅伝	9名出場 予選敗退
空手	1回戦敗退
自転車	総合8位
柔道	男子:2回戦敗退 女子:ベスト16 個人 ベスト8 大久保愛、藤本みどり
新体操	男子個人 総合12位 駒井直之
ボクシング	ライトフライ級3位 他4名 1回戦敗退
卓球	団体:ベスト16 ダブルスベスト16 廣瀬・坂本組
バレーボール	ベスト16

インターハイ県予選のまとめ

空手	1回戦敗退
弓道	優勝
剣道	2回戦敗退
サッカー	ベスト8
柔道	男子:団体2位 個人1人インターハイ出場 女子:団体2位 個人5人インターハイ出場
硬式テニス	団体3位
卓球	団体3位、シングルス 2位 百瀬翔太
ソフトテニス	第5位
バスケットボール	ベスト8
バレーボール	準優勝
ハンドボール	第6位
ボクシング	フェザー級 深山 岳 インターハイ出場

インターハイ結果まとめ

弓道	予選通過 決勝トーナメント1回戦敗退
自転車	4Km速度 第2位 丸山雄太 チーム・スプリント 8位 沼田明久、丸山雄太、末木浩二
新体操	男子個人 総合30位 駒井直之
柔道	初戦敗退
ボクシング	フェザー級 深山 岳 1回戦RSC敗退
卓球	シングルス 百瀬翔太 1回戦敗退

高校春季大会結果のまとめ

バレーボール	準優勝
--------	-----

国体結果のまとめ

自転車	ケイリン 優勝 末木浩二 4Km速度 第4位 丸山雄太
バレーボール	ベスト16(県選抜チーム) 高田敬介

第90回全国高等学校野球選手権山梨県大会

2回戦	甲府工 10 - 0	白根
3回戦	甲府工 5 - 4	巨摩
準々決勝	甲府工 3 - 10	日川

第61回秋季関東地区高校野球山梨県大会

2回戦	甲府工 7 - 0	市川(7回コールド)
3回戦	甲府工 1 - 0	富士河口湖(延長10回)
準々決勝	甲府工 7 - 0	韭崎(7回コールド)
準決勝	甲府工 5 - 4	身延
決勝	甲府工 1 - 5	日本航空

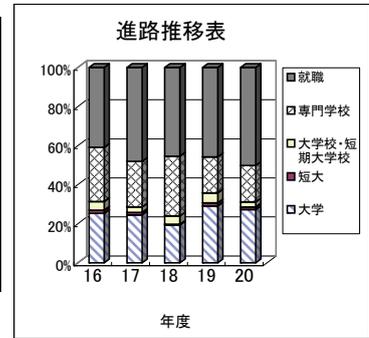
第61回秋季関東地区大会

1回戦	甲府工 6 - 11	下妻二
-----	------------	-----

写真部	春季競写会 団体準優勝 個人 銀賞 市川カヨ 銅賞 遠藤昭洋 他 入選1名 佳作5名
	秋季競写会 団体準優勝 個人 銀賞 遠藤昭洋 銅賞 市川カヨ 他 佳作6名
	冬季競写会 団体準優勝 個人 銅賞 山岡 亮太 入選1名 佳作5名
	関東大会(合同写真展) 遠藤昭洋、堀井一貴、市川カヨ
	第29回山梨県芸術文化祭 写真部門 芸術文化祭賞 遠藤昭洋 優秀賞 堀井一貴
	第8回やまなし県民文化祭写真展 学生の部 入選 市川カヨ、渡邊涼介、鮎川龍馬
吹奏楽部	第48回山梨県吹奏楽コンクール高校Bの部 銀賞
	山梨県アンサンブルコンテスト 混成八重奏 銅賞
軽音楽部	第29回山梨県高等学校芸術文化祭器楽管弦楽部門 奨励賞受賞
放送委員会	第55回NHK杯全国高校放送コンテスト山梨県大会 校内放送研究発表 奨励賞 中澤岳、神宮司玄
	第55回NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会 校内放送研究発表 研究奨励賞 中澤岳、神宮司玄
建築研究部	YBS杯県下高校放送コンテスト 朗読部門 6位入賞 加賀美佑弥
	中央工学校主催 第2回建築系高校生対象コンペティション (最優秀賞) 松原稜太 (優秀賞) 廣瀬将泉 (佳作) 阿部航己、小沢恵里子、岩下勇人、中込慎也 (奨励賞) 関口宏海、村田佑希
	第5回道都大学美術学部高校生住宅設計コンクール (最優秀賞) 村田佑希 (審査員特別賞) 松原稜太 (佳作) 阿部航己 (奨励賞) 古屋朱梨、岩下勇人、中込慎也
	日本建築協会主催 第54回工業高校生デザインコンクール (優秀賞) 関口宏海 (入選) 中込慎也
	第8回東洋大学全国高等学校「住宅設計競技」(最優秀賞) 山口千明 (優秀賞) 阿部航己、小沢恵里子
	第7回愛知産業大学建築コンペティション (奨励賞) 中込慎也
	工学院大学 第1回 高校生の建築フレッシュ・アイデア・コンペ(絵の部門) (優秀賞) 関口宏海 (審査員特別賞) 宮崎梓
	工学院大学 第1回 高校生の建築フレッシュ・アイデア・コンペ(文の部門) (優秀賞) 宮崎梓 (審査員特別賞) 廣瀬将泉
	秋田県立大学主催 高校生建築提案コンテスト2008 (優秀賞) 山本慧
	長崎総合科学大学主催 第11回 全国高校生対象 設計アイデアコンテスト (最優秀賞) 山口千明 (入賞) 宮崎梓
	第55回日本大学全国高等学校建築設計競技 (最優秀賞) 岩下勇人 (審査員特別賞) 松原稜太 (優秀賞) 関口宏海 (奨励賞) 山口千明
	第16回九州産業大学建築設計競技(2等) 中込慎也
	第27回全国高校生建築製図コンクール 金賞(第5課題) 古屋朱梨 入賞(第5課題) 阿部航己 入賞(第4課題) 松原稜太 入賞(第3課題) 阿部航己 入賞(第2課題) 中込慎也
名古屋工業大学「エネルギーと環境」コンペティション	
機械技術部	第22回ホンダエコパワー燃費競技鈴鹿大会 1号車 381km/L 12位/54台中 2号車 324km/L 16位/54台中
	第28回ホンダエコパワー燃費競技全国大会 2号車 612.3km/L 48位/168台中 1号車 途中リタイヤ
機械科	第27回工業高校生製図コンテスト機械系部門 芸術文化祭賞・金賞 雨宮雄太 金賞 大久保愛 銀賞 坂本聖祐 他入選13名
	高校生ものづくりコンテスト(旋盤加工部門)山梨県大会 優勝 及び 関東大会出場 奨励賞 山口拓也
電気科	2008ロボコンやまなし高校生の部 I 対戦型8インチマールボール入れ競技 優勝(ダークライ) 準優勝(甲府工業M31)
	ホンダエコパワー 燃費競技全国大会参加
電子科	2008ロボコン山梨 高校生の部I 対戦型8インチマールボール入れ競技 ベスト8 アイデア賞 「E3-1」
	第8回関電研電気工事コンテスト山梨県大会第1位 清水 愛斗
建築科	第27回工業高校生製図コンテスト 電気部の部 芸術文化祭賞 金賞 宮下 恭一
	2008ロボコン山梨 自由参加の部 「水汲みロボット競技」準優勝 スタッフ・オギュー
	平成20年度 第25回 山梨県工業高等学校 プログラムコンテスト
	ホームページ部門 「五葉鐘鳴館」金賞 平賀菜美子
	ホームページ部門 「FlashによるHPデザイン」銀賞 伊藤 誠
	マルチメディア部門 「Lose One's Way」金賞 長田真由子
土木科	マルチメディア部門 「生まれる冬」銅賞 名取 静
	自由研究部門 「Linuxサーバーの構築・運用とアプリケーションの開発」金賞 三枝 峻
	自由研究部門 「超音波を使った制御」銀賞 長田昭太郎
	中央工学校主催 第2回建築系高校生対象コンペティション 佳作 井上かおり
国語科	第5回道都大学美術学部高校生住宅設計コンクール 奨励賞 依田彩加
	日本建築協会主催 第54回工業高校生デザインコンクール 入選 依田彩加
	第22回日本工業大学建築設計競技 奨励賞 依田彩加
	第55回日本大学全国高等学校建築設計競技 奨励賞 杉田晴花
理科	甲斐の家2008アイデア募集 優秀賞 (作文) 樋川大起 佳作(作文) 邊見 萌
	高校生ものづくりコンテスト(測量競技)山梨県大会 優勝・関東ブロック神奈川大会 準優勝
国語科	第27回工業高校生製図コンテスト 土木の部 芸術文化祭賞 金賞 櫻林 広平 銀賞 石原 拓馬
	平成20年度山梨県高等学校芸術文化祭・文学部門 優秀賞 俳句 田中涼太
理科	第54回青少年読書感想文コンクール 県佳作 松田和紀、塩澤直純、中野洋介
	H20 第11回科学写真作品展 学校賞
	最優秀賞(県教育委員長賞) 田中涼太
	山梨日日新聞社賞 中込拓也
	朝日新聞社賞 小林勇雅
	産経新聞社賞 市川恭成
	毎日新聞社賞 小澤捷
	NHK甲府放送局長賞 高橋大晴
	山梨放送賞 田村和也
	テレビ山梨賞 橋田聖

過去5年間の進路状況(平成16年度～平成20年度)

	大学	短大	大学校・短期大学校	専門学校	進学合計	公務員	就職	卒業者数
平成16年度	62 25.1%	4 1.6%	11 4.5%	68 27.5%	145 58.7%	2 0.8%	100 40.5%	247
平成17年度	61 23.5%	3 1.2%	7 2.7%	58 22.3%	129 49.6%	5 1.9%	119 45.8%	260
平成18年度	50 19.0%	1 0.4%	11 4.2%	79 30.0%	141 53.6%	4 1.5%	117 44.5%	263
平成19年度	73 28.3%	4 1.6%	13 5.0%	46 17.8%	136 52.7%	4 1.6%	115 44.6%	258
平成20年度	63 26.6%	3 1.3%	6 2.5%	43 18.1%	115 48.5%	6 2.5%	116 48.9%	245



平成16年度 進路状況

	学								進学合計	就職				就職合計		
	大学				短大					学校紹介		自己縁故等				
	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	計		県内	県外	公務員	縁故等			
機械科	0	0	19	19	0	0	2	2	2	18	41	22	2	0	3	27
電気科	0	0	16	16	0	0	0	0	3	12	31	34	1	0	1	36 (1)
電子科	1	0	7	8	0	0	0	0	5	10 (1)	23 (1)	6 (1)	2	3	1 (1)	12 (2)
建築科	0	0	12 (2)	12 (2)	0	0	2	2	1	14 (3)	29 (5)	5 (2)	2	1	0	8 (2)
土木科	0	0	7	7	0	0	0	0	0	14 (1)	21 (1)	13	3	0	3	19
合計	1	0	61 (2)	62 (2)	0	0	4	4	11	68 (5)	145 (7)	80 (4)	10	4	8 (1)	102 (5)

()内は女子の内数

平成17年度 進路状況

	学								進学合計	就職				就職合計		
	大学				短大					学校紹介		自己縁故等				
	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	計		県内	県外	公務員	縁故等			
機械科	0	0	11	11	0	0	0	0	2	24 (1)	37 (1)	25	2	4	3	34
電気科	0	0	13	13	0	0	0	0	1	5 (1)	19 (1)	42	3		3	48
電子科	2	0	17 (1)	19 (1)	0	0	1	1	3	5	28 (1)	10	1	1		12
建築科	1 (1)	0	12 (4)	13 (5)	0	0	2 (2)	2 (2)	0	12 (4)	27 (11)	6 (2)	1		4 (1)	11 (3)
土木科	0	0	5	5	0	0	0	0	1	12 (1)	18 (1)	10 (1)	3		6 (1)	19 (2)
合計	3 (1)	0	58 (5)	61 (6)	0	0	3 (2)	3 (2)	7	58 (7)	129 (15)	93 (3)	10	5	16 (2)	124 (5)

()内は女子の内数

平成18年度 進路状況

	学								進学合計	就職				就職合計		
	大学				短大					学校紹介		自己縁故等				
	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	計		県内	県外	公務員・公社	縁故等			
機械科	0	0	7	7	0	0	0	0	5	27	39	33	4	1	2	40
電気科	0	0	10	10	0	1	0	1	0	10	21	39	4	2	4	49
電子科	1	0	14	15	0	0	0	0	5	12 (1)	32 (1)	5	1		6	
建築科	1	1	8	10	0	0	0	0	1	16 (1)	27 (1)	8 (4)	1 (1)	1	1 (1)	11 (6)
土木科	0	0	8	8	0	0	0	0	0	14	22	9	4		2	15
合計	2	1	47	50	0	1	0	1	11	79 (2)	141 (2)	94 (4)	14	4	9 (1)	121 (6)

()内は女子の内数

平成19年度 進路状況

	学								進学合計	就職				就職合計		
	大学				短大					学校紹介		自己縁故等				
	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	計		県内	県外	公務員・公社	縁故等			
機械科	1	0	16	17	0	0	1	1	10	17	45	29 (3)	3	1	0	33 (3)
電気科	1	0	8	9	0	0	0	0	2	12 (1)	23 (1)	27 (1)	13	0	1	41 (1)
電子科	4	0	17	21	0	0	0	0	4	4 (1)	29 (1)	5 (1)	3	1	0	9 (1)
建築科	1 (1)	0	12 (3)	13 (4)	0	0	3 (1)	3 (1)	1	5 (1)	22 (6)	6 (1)	1 (1)	0	6 (4)	13 (6)
土木科	1	0	11	12	0	0	0	0	1	4	17	11 (1)	6	2	4	23 (1)
合計	8 (1)	0	64 (3)	72 (4)	0	0	4 (1)	4 (1)	18	42 (3)	136 (8)	78 (7)	26 (1)	4	11 (4)	119 (12)

()内は女子の内数

平成20年度 進路状況

	学								進学合計	就職				就職合計		
	大学				短大					学校紹介		自己縁故等				
	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	計		県内	県外	公務員・公社	縁故等			
機械科	0	0	12	12	0	0	2	2	2	18	34 (0)	24	3	2	3	32 (0)
電気科	0	0	14	14	0	0	0	0	1	8 (2)	23 (2)	37	9	1	2	49 (0)
電子科	3	0	15 (1)	18 (1)	0	0	0	0	1	2 (1)	21 (2)	4	2	2 (1)	2 (1)	10 (2)
建築科	1	0	11 (4)	12 (4)	0	0	1 (1)	1 (1)	1	5 (1)	19 (6)	10 (4)	3	1	1	15 (4)
土木科	2	0	5	7	0	0	0	0	1	10	18 (0)	6	7 (1)	0	3	16 (1)
合計	6	0	57 (5)	63 (5)	0	0	3 (1)	3 (1)	6	43 (4)	115 (10)	81 (4)	24 (1)	6 (1)	11 (1)	122 (7)

()内は女子の内数

国公立大学視察訪問

平成19年度実施			
6月26日	信州大学	戸田校長、飯嶋3学年主任	大学訪問
6月28日	富山大学	戸田校長、飯嶋3学年主任	大学訪問
6月29日	長岡技術科学大学	戸田校長、飯嶋3学年主任	大学訪問
7月2日	静岡大学	戸田校長、飯嶋3学年主任	大学訪問
8月24日	山梨大学	戸田校長、飯嶋3学年主任	大学訪問

平成20年度実施			
6月6日	信州大学	手塚教頭、山西進路主任	大学訪問
6月30日	富山大学	手塚教頭、山西進路主任	大学訪問
7月1日	長岡技術科学大学	手塚教頭、山西進路主任	大学訪問
7月7日	静岡大学	手塚教頭、山西進路主任	大学訪問
5月16日	山梨大学	手塚教頭、山西進路主任	大学訪問
6月6日	名古屋工業大学	浅川建築科主任	入試説明会

スーパー甲府工業構想の3本柱のひとつである「工業系大学進学を目指した教育」を実現するため、山梨大学をはじめ、近隣県の、特に国公立大学を視察訪問し、専門高校出身者が入学後、どのような学校生活を送り、どのような課題を抱えているか、などを知ることにより、高校での指導の充実を計った。

工業高校から入学した学生は、1・2年次は基礎学力に難があるが、3・4年次になると高校時代の専門知識を生かし、すばらしい発想をしてくれるとともに、専門教科でリーダーシップがとれるくらい成績も上昇する学生が多いそうだ。大学院に進学する学部生が6割から7割程度いる。反面、基礎学力不足の生徒も多く、大学独自の学力向上のための支援体制に取り組んでいる。

工業高校からの入学は、一般公募推薦や専門高校卒など、一般入試でなく、推薦入試が主流。そこで、面接については、「やる気」「元気」を感じさせること、「もの落ち」しない、「おどおど」はダメ。小論文については「上手な文章」は期待してなく、「論理的」であるか否かが問われる。高校からの調査書は、ほとんど信頼してなく、口頭試問や基礎学力試験などを課して、それは出来て当たり前という考え。工業高校での教科書レベルの学力は完璧にしておくこと。

学校名	学校概要 ・学科数5学科 ・生徒数599人 （内男女生52人） ・専任：准天学合格者 ・国公立天学合格者 ・H18実績：5/110	教育方針（基本理念） ・校訓「至誠一貫」は本校の歴史に由来し、誠がまわりの生徒育成に広げられ、生徒指導より、進学を力を入れている。	専門性指導の特色 ・インターンシップへの取組から2年生対象に全員コンテストの「ものづくり」に参加。	進学指導の要領 ・特になし、教科での指導	部活動のあり方 ・全員入部制ではないが8割は入部している	備考（その他の特色） ・中学校への取り組み（岡工・諏訪・富士）3校合同授業 ・総合的な学習の時間 ・専門中学校説明会 ・課題研究3単位に代り
長野工業高校	・学科数7学科 ・生徒数839人 （内専職：准天学合格者 ・就職：立大（33:66） ・国公立天学合格者：19/189 ・H18実績：2学科 ・定時制	・「日本一の絶頂」をいかに実現するか、工業の発展に貢献する。高専時代の強みを生かす。	取組で、プロの現場に自ら参加し、技術を習得し、必要に応じて進出させる。	・国立各公私立の技術者養成機関の動向も注視している。	・全員入部制ではない。	・中学生が「高専」へ進学する目的は、高専の設備・環境・授業内容・指導体制・就職先・生活環境など、高専生活のイメージを掴むことにある。

資格取得者数

分野	資格名	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
		合計 945	合計 1260	合計 968	合計 924	合計 916	合計 898	合計
製図関係	基礎製図検定	57	70	40	60	55	62	
	製図技能検定	A級	29	33	18	25	23	
技能検定	一般熱処理	3級			13	16	20	
	普通旋盤	3級			3	3	2	
	機械検査	3級			5	2	2	
	シーケンス制御	3級						
機械・工業技術関係	ガス溶接技能講習修了証	110	80	84	93	87	92	
	アーク溶接技能講習修了証	135	128	111	90	96	72	
	小規模ボイラー 取扱講習修了証	127	140	110	109	101	60	
	2級ボイラー実技講習修了	18	38	18	2		1	
	ボイラー技士 2級		3	1	1		1	
	1類	8	9	2	4	1	11	
	2類	1	8	2	6	1	5	
	3類	3	7	2	3	4	5	
	4類	37	33	17	25	21	66	
	5類	2	6	2	1	1	11	
6類	5	7	2	1	2	14		
危険物取扱者 丙種	19	4	7	39	21	3		
旋盤検定	3級	56	47	62		59		
金属熱処理	3級	14	13	13		19		
電気・電子技術関係	第3種電気主任技術者		1					
	第1種電気工事士	10	6	10	22	23	20	
	第2種電気工事士	66	58	52	63	65	73	
	電気工事施工技術者	6			7		5	
	デジタル1種	5	3		1			
	デジタル2種							
	デジタル3種	17	15	14	5	1	6	
	アナログ1種		2					
	アナログ2種							
	アナログ3種							
アマチュア無線技士					1	5		
2級					1			
3級					1			
4級	2							
陸上特殊無線技士	2級	10	24	16	9	5	13	
ラジオ音響技能検定	4級		39	9	8			
ディジタル技術検定	4級		11	7	11			
情報・計算技術関係	1級						1	
	2級	1	1				4	
	3級	192	193	143	34	35	39	
	4級	1						
	1級			2				
	2級	1	29	27	28	23	33	
	3級	62	68	40	75	143	95	
	4級							
	画像情報技能 検定CG部門 (CGクリエイター)	2級		4				
	3級	15	23	6	5	5	1	
画像情報技能検定画像処理部門 (エンジニア)	2級							
3級		3	1		1			
画像情報技能検定マルチメディア部門	2級		1				4	
2級		5	3	4	2			
3級		2	1	2	1			
初級システムアドミニストレータ		5	3	4	2			
パソコン検定4級ベーシック		5	3	3	3			
MOS検定		1						
インターネット実務検定 2級		1						
ワープロ検定 3級				1				
建築土木測量関係	建築施工管理技術検定(建築施工技術者)	2級	15	12	7	10	4	
	測量士補		1		2	1	3	
	土木施工管理技術検定(土木施工技術者)		23	27	31	4	9	
	初級CAD		11		8	14		
	車両系建設機械		7		5	3	2	
	小型フォークリフト(1t未満)		1				2	
	高所作業車		1					
	小型移動式クレーン		3				4	
	玉掛け						4	
	福祉住環境コーディネーター	2級					1	
3級			1		3	2		
国語	日本漢字能力検定		2	1		4	2	
	準2級		4	1	1	14	20	
	3級		5	6		4	5	
英語	実用英語技術検定		2					
	準2級		2					
家庭	1級	2	3	2		1	1	
	2級							
	3級							
	被服製作		1					
	2級		1			1		
	3級	3	2	1				
	4級	7	2	1	5	4		
	1級	1	2					
食物調理	2級	4	2	1				
	3級	7	6	15	7	32	4	
	4級	11	7	41	18	63	4	

ジュニアマイスター顕彰制度 受賞者数(過去5年間実績)

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	合計 18	合計 16	合計 12	合計 19	合計 12	合計 34	合計
金 賞	5	6	3	6	4	13	7
銀 賞	13	10	9	13	8	21	15

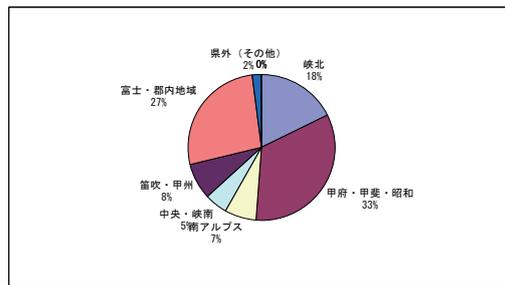
山梨県内企業の工業系高校新卒者採用等についての調査

山梨県工業教育部会
平成20年11月

回答数・・・162社 回収率・・・52.9%

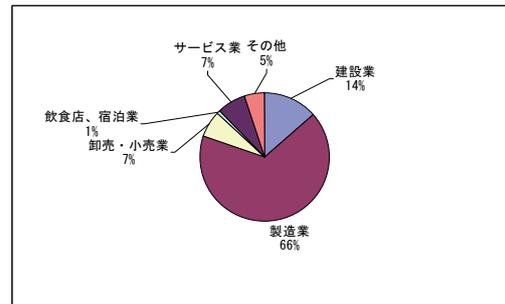
(1) 事業所の所在地を市町村名までご記入下さい。

峡北	29
甲府・甲斐・昭和	54
南アルプス	11
中央・峡南	8
笛吹・甲州	13
富士・郡内地域	44
県外(その他)	3



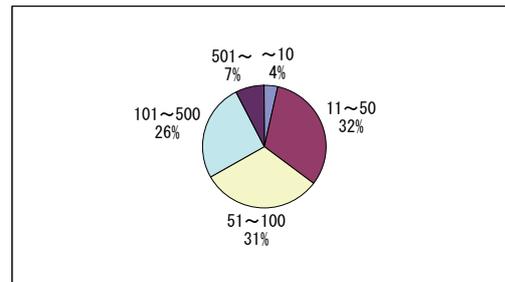
(2) 産業分類

0 建設業	22
1 製造業	108
2 情報通信業	0
3 卸売・小売業	11
4 飲食店、宿泊業	1
5 医療、福祉	0
6 複合サービス事業	0
7 サービス業	12
8 その他	8



(3) 採用事業所の従業員数

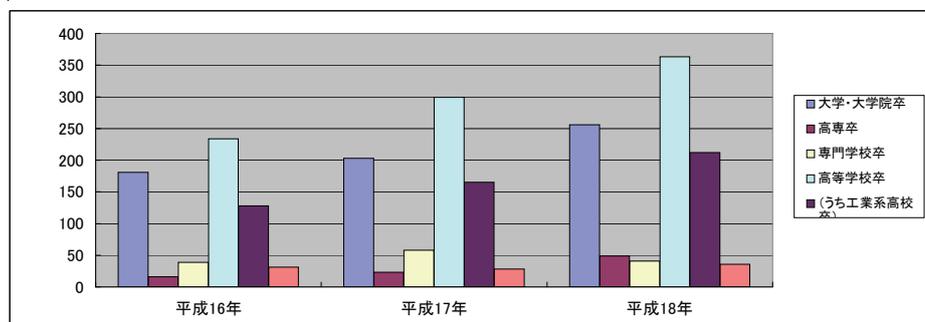
0 0～10	6
1 11～50	51
2 51～100	51
3 101～500	42
4 501～	12



2 貴社の採用状況等についておたずねします

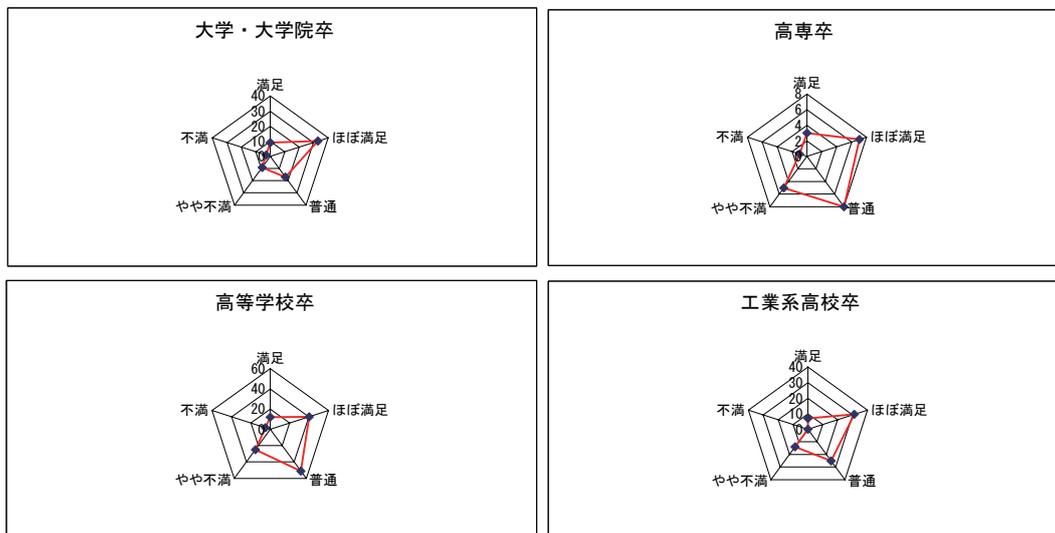
(1) 過去三年間の新規学卒者(正社員)の採用人数をご記入ください。

	平成16年(2004年)	平成17年(2005年)	平成18年(2006年)
大学・大学院卒	181	203	256
高専卒	16	23	49
専門学校卒	39	58	41
高等学校卒	234	299	363
(うち工業系高校卒)	128	165	212
その他	31	28	36



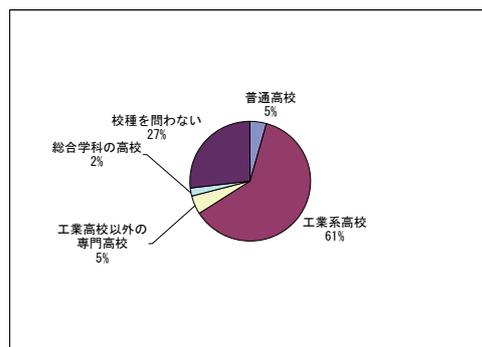
(2)採用した人材は、御社が求めている水準を満たしていますか。
校種別に、該当する箇所に○印をつけて下さい。

	満足	ほぼ満足	普通	やや不満	不満
大学・大学院卒	9	33	17	9	3
高専卒	3	7	8	5	1
高等学校卒 (うち工業系高校卒)	12	40	51	25	5
その他	7	31	25	14	0
	1	5	3	1	0



(3)高校卒業生を採用するとき、どの校種から採用したいと思いますか。

- 0 普通高校 8
- 1 工業系高校 107
- 2 工業高校以外の専門高校 9
- 3 総合学科の高校 4
- 4 校種を問わない 47



その他、ご自由にご記入下さい。

- ・工業系卒業者は普通科卒業生に比べ専門知識はあるが積極性がない
- ・家庭で家業、農業等をしっかりやっているか、能力は別としてスポーツに熱中している人物は、仕事に対する対応がよい
- ・主に工業系高校で電気科
- ・中小企業の採用は困難を窮めている。社員90人程度で、無借金会社であるが知名度が低く残念な結果になっている。
- ・理系の人材をより充実していきたい。製造に関わる意欲のある方でしたら、自社で育てることができる。教育に力を入れていく予定。
- ・職業意識が高く、元気で明るく挨拶ができる生徒を望む。
- ・基本的な部分に少々問題がある(話を聞く態度や公私の区別など)

・当社では毎年最低1名工業高校よりすばらしい人材を受入れさせていただいてきましたが、ここ数年は進学者が多いのか大手へ行ってしまおうのか、募集してもなかなか期待するような人材が集まらない現状です。

・物作りに興味のある生徒さんを育てて欲しい。生徒さんに製造業社に実習コーナー(現在行われている)の時間を増やして知ってもらうことが一番かと思います。尚、興味を持たれた生徒さんには夏休み、冬休みなど休み期間にアルバイトとして来ていただき事業所の内容を知っていただくことが良いのではないかと思います。

・普通高校、総合学科の生徒は、本来意義的に私共のような建設業関連の職業は、社会で余り通用しないと思っているのではないかと思います。私達が、日頃から携わっている仕事は、手に職をつけるということ、ものづくりの大切さを身に付け社会に貢献するという意味を、今までの工業高校より入社した生徒は、当初は何か、当方も不安を感じておりましたが、今では会社に順応しています。

- ・仕事があまり無いので当分採用するつもりはありません。
- ・家族だけでやっているので、従業員を採用したことがありません。
- ・対応力、持続力、理解力を考慮し採用を行いたい

3 工業系高校生採用の観点と今後の見通しについておたずねします

(1)工業系高校生を採用している理由はなんですか？

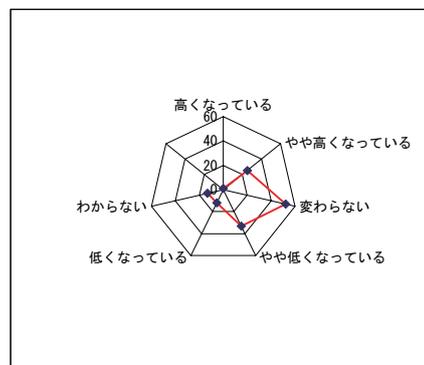
- ・当社の業務内容に即した専門知識・技術が身につけており、即戦力になるため 49
- ・就職意識が高く、仕事に対して前向き 5
- ・技術の伝承と技術者の育成 20
- ・製造業・建設業の為 20
- ・組立・加工作業者要員の為 4
- ・製造業なので電気・電子等の知識が必要
- ・製造現場のエンジニアとして、優れている 2
- ・当社が電気事業である為
- ・電気主任技術者の資格が必要な業務であるため資格取得に必要な科目履修をしていることを採用の条件と考えているため
- ・職種及び販売商品に関連が有る為 2
- ・ものづくりに興味を持っているから 3
- ・電気、機械等の基礎的な知識を持ち、機器の取り扱いに慣れ、習熟が早く、教育や育成がやり易い 19
- ・全体の技術レベルアップ 2
- ・製造に関する基礎知識を学んでいるので可能性が高い 8
- ・製造業に興味を持ち、技能を身に付け、製造業分野で働く意志がある
- ・地域的に総合普通科高校は就職希望が極めて少なく工業系から採用している
- ・従来から採用しているため
- ・技術の継承を目的とした工業系人材の確保と事業継承のため定期採用(人材確保) 4

・メーカーとして工業系の人材採用は不可欠。機械・電気が好き、興味がある。
この確率が高いのが工業系高校。

- ・技術修得が早い。技能五輪への参加
- ・技術職で最初から専門知識が必要なため
- ・製造業として、ものづくりのノウハウを将来に伝承できるリーダーを育成する。
- ・親御さんも、学識重視より、社会重視と本人の手に職をという姿勢
- ・地元採用で地域に貢献。地元在住、通勤可能なため。
- ・現場教育科目があるから
- ・土木工事業に精通している学科のある高校
- ・資格等に対して有利な点 2
- ・マシンングセンタ技術(図面の知識)をもっているから 3
- ・工作機械のオペレーターとして
- ・機械を使用する仕事への適正がある
- ・電気技術者、ボイラ技師等資格が必要(二種電気工事士、最低必要)
- ・半導体関係業種であることから、工業系卒業者を採用したい
- ・実践力有り、質高い、定着度高い
- ・普通科生にない技術技能 2
- ・人物を重視しますので、工業系には拘らない。
- ・特に工業系高校を意識している訳でなく採用試験の結果を重視している
- ・県内全高校に求人を出している
- ・工業系高校生は採用していない
- ・男子生徒で接客、調理等に関心のある人が多い
- ・専門業種ではないので特になし
- ・校種問わず
- ・最近高校生の採用なし 2

(2)これまでに採用してきた工業系高校生の質はどうなっていますか？

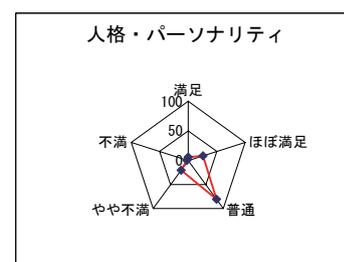
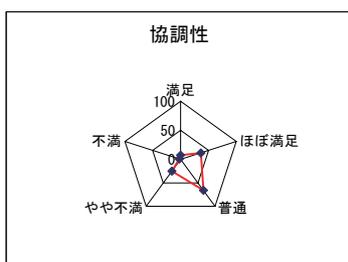
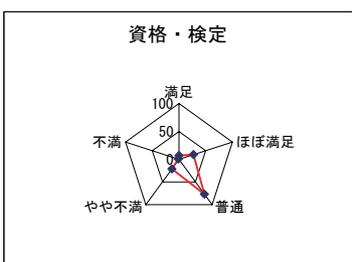
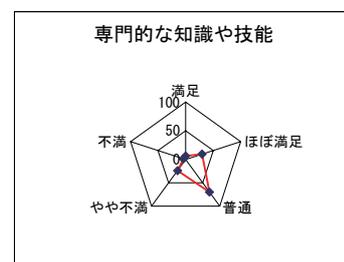
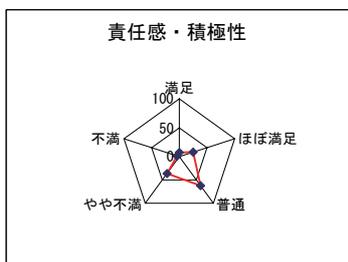
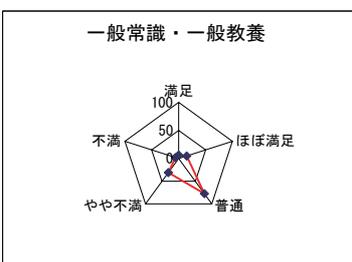
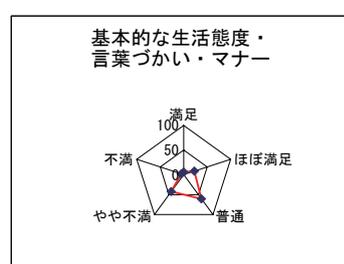
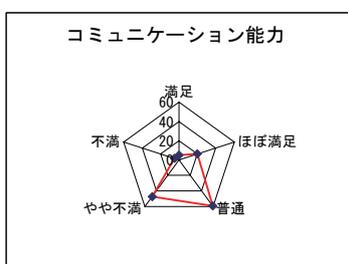
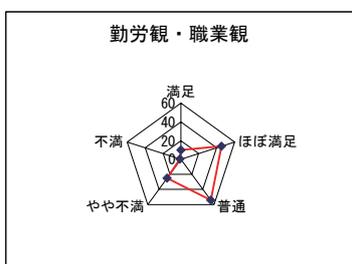
0 高くなっている	1
1 やや高くなっている	25
2 変わらない	52
3 やや低くなっている	33
4 低くなっている	12
5 わからない	13



(3)これまでに採用された工業系高校生(応募者も含む)は下記の要件を満たしていますか？

各項目ごとに該当する空欄に○印をつけて下さい。(今秋の使用試験時の印象でも結構です)

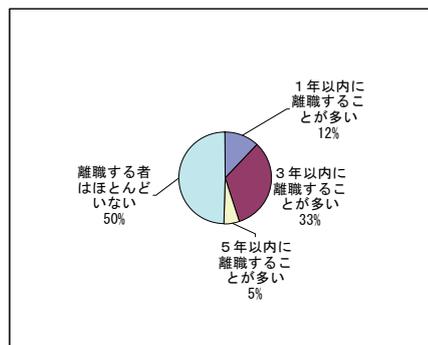
項目	満足	ほぼ満足	普通	やや不満	不満
勤労観・職業観	10	45	54	25	1
コミュニケーション能力	5	20	59	47	5
基本的な生活態度・言葉づかい・マナー	5	23	61	43	5
一般常識・一般教養 読み・書き・聞く・ 計算などの基礎学力	6	15	77	31	6
責任感・積極性	7	25	62	36	4
専門的な知識や技能	6	30	70	24	4
資格・検定	7	27	77	21	1
協調性	7	36	66	25	2
人格・パーソナリティ	6	26	80	20	2



(4)工業系高校生の離職状況についてお聞かせ下さい。

- 0 1年以内に離職することが多い
- 1 3年以内に離職することが多い
- 2 5年以内に離職することが多い
- 3 離職する者はほとんどいない

16
43
7
65



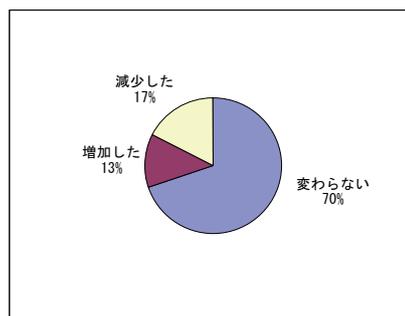
離職の主な理由はどのようなものでしょうか？
差し支えなければご記入下さい。

- ・仕事があわない 9
- ・他業種への転職 17
- ・人間関係 5
- ・志向の変化 5
- ・家業に従事するため 3
- ・辛抱がたりない 2
- ・仕事(技能)習得ができない
- ・上級学校に進学 2
- ・労働条件が合わない 2
- ・会社の経営理念である人づくりの勉強についていけない
- ・理由は大半があきらかにしない。無断欠勤し、そのまま離職もある。親も何も言っていない
- ・入社前に想定していた業務内容と異なるため 3
- ・企業の採用活動が活発なため
- ・集団生活不適
- ・友達の誘い 2
- ・高度な技術についてこれない
- ・自己都合 3
- ・給与面 2
- ・結婚
- ・技術系職種への転向
- ・会社の規則を守れない
- ・通勤時間がかかり過ぎる
- ・県外の現場に配属されたこと
- ・他にやりたい事がある。

(5)工業系高校生の離職状況は、過去に比べてどう変化していますか。

- 0 変わらない 88
- 1 増加した 16
- 2 減少した 22

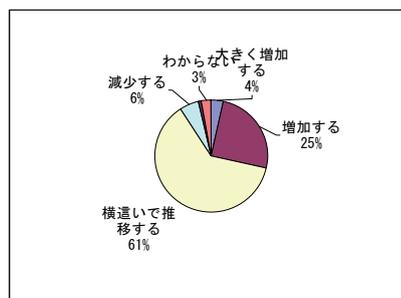
その他ご自由にお書き下さい。



- ・採用者の質が上方傾向
- ・計画的にライセンスに挑戦させるようになり減少した。
- ・家庭の事業で退職した者もいる
- ・辞める方の殆どが、訓練期間(6ヵ月)に退職
- ・工業出身者は普通科出身者に比べ定着率がいい
- ・10年間で工業高校生5名採用で3名離職、2名在職中
- ・私たちの事業所としては変わらないが組織全体としては増加したと思われる
- ・経験は少ないが、本人のスキルアップのための離職が容易になっているように思う
- ・工業高校生徒さんのほうが基礎知識があるので定着率が高い
- ・去る者は追わず、去る者は何も語らず
- ・平成元年からデータを出していますが、定着率は33%です。

(6) 今後の採用の見通し(該当欄をマークする)(1つ回答)

- 0 大きく増加する 5
- 1 増加する 35
- 2 横這いで推移する 87
- 3 減少する 8
- 4 大きく減少する 1
- 5 わからない 4



0・1と回答→(7)・(ア)へ 3・4と回答→(7)・(イ)へ

(7) 採用人数の変動要因(該当欄をマークする)

(ア) 増加の場合(複数回答可)

- 0 大学・短大・高専等から高校への切り替え 4
- 1 長期的視野にたった人材育成への積極的な取り組み 34
- 2 事業拡大のための増員 27
- 3 低年齢化による労働コストの削減 1
- 4 退職者の補充 17
- 5 年代構成の歪の是正 14
- 6 その他 0

(イ) 減少の場合(複数回答可)

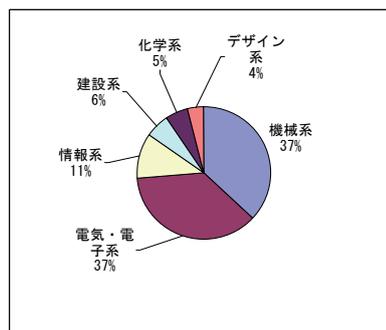
- 0 高校から大学・短大・高専等への切り替え 0
- 1 機械化などの省力化・効率化による削減 4
- 2 正社員からパート・アルバイト・派遣社員への切り替え 2
- 3 人員削減による合理化 8
- 4 その他 3

4 工業系高校教育に期待する点についておたずねします(該当欄をマークする)

(1) 今後工業系高校から採用するとき、どの学科から採用したいですか。

(複数回答可)

- 0 機械系 101
- 1 電気・電子系 101
- 2 情報系 30
- 3 建設系 16
- 4 化学系 15
- 5 デザイン系 11



(2) 工業系高校に新たに設置してほしい学科やコースなどありますか。

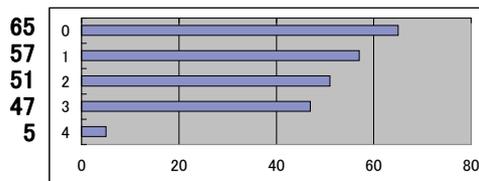
具体的にご記入下さい。

- ・メカトロニクス科
- ・食品化学
- ・学科は問わず。コミュニケーション能力。明るく前向きな性格
- ・化学科、工業化学科
- ・ものづくりのための技能を中心としたコース
- ・電気科の設置校及び生徒定員を増やして欲しい
- ・専門学校的な教育
- ・品質管理や生産管理などのソフト面を充実させたコース
- ・制御(シーケンサー)
- ・機械加工、電気、電子回路の実技実習を主体として、そこから必要な知識を学習・習得する「ものづくり専門学科」
- ・ビルメンテナンス
- ・NC工作機械CAD・CAM 3
- ・建設業に限らずとも、ものづくりの楽しさ大切さを知らしめるコース
- ・土木施工管理技師コース
- ・電気工事資格コース
- ・園芸科:生活に自然とかかわり、農作物の生産、花・木の育成とガーデニング、花屋さん
- ・金型コース(工作機械などは必須科目に)
- ・生産技術コース(図面設計等)
- ・住設関連、建築設備士等
- ・製造のマネジメント、経理

(3)工業系高校に期待する専門性の具体的習得内容についておたずねします(複数回答可)

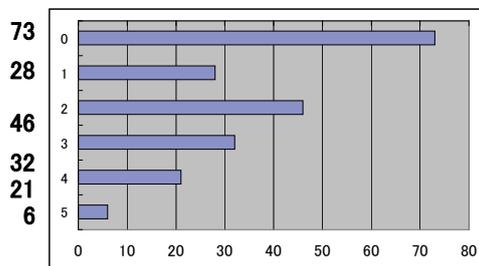
機械系

- 0 汎用工作機械の知識と操作技術
- 1 NC工作機械・FA機器知識と操作技術
- 2 設計製図の知識と技術
- 3 CAD・CAMの知識と操作技術
- 4 その他（機械の組立, 機械保守保全）



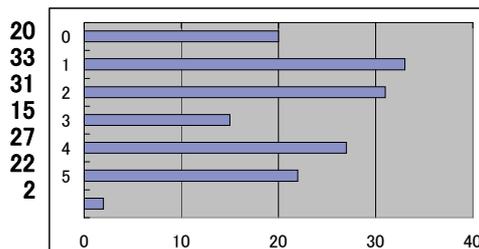
電気系

- 0 電気工学等の基礎に関する知識
発電、変電、送電、配電並びに電気材料及び電気法規に関する技術
- 1 電気機器、自動制御、電気エネルギーの利用及び処理に関する技術
- 2 電気機器設計及び製図に関する技術
- 3 電気工学の実験及び実習に関する技術
- 4 その他（電気配線に関する技術）



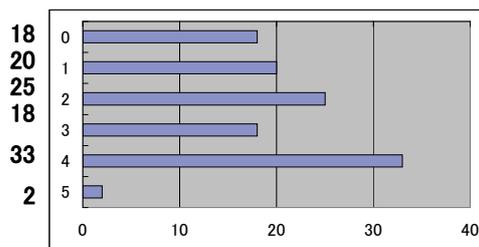
電子・情報系

- 0 汎用アプリケーションソフトの知識と操作技術
- 1 プログラミングの知識と技術
- 2 半導体や電子回路に関する知識と技術
- 3 電子計測技術や通信に関する知識と技術
- 4 システム開発の知識と技術
- 5 ネットワークの知識と技術
- 6 その他



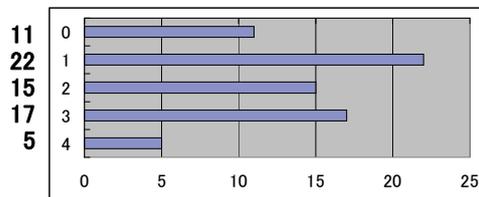
環境化学系

- 0 化学合成・分析の知識と技術
- 1 工業材料の知識と加工技術
- 2 危険物・毒劇物等薬品の知識や取り扱い
- 3 大気水質測定・環境保全の知識と技術
- 4 ISO14001など産業界における環境保全活動の知識と技術
- 5 その他



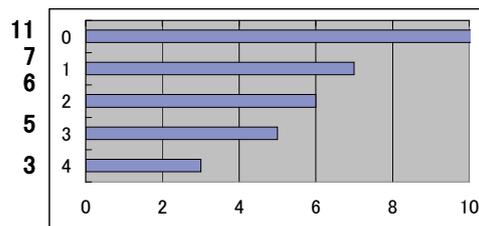
土木・建築系

- 0 測量技術
- 1 施工管理技術
- 2 設計製図の知識と技術
- 3 CADの知識と操作技術
- 4 その他



デザイン系

- 0 デザイン技術
- 1 グラフィックデザイン汎用ソフトの操作技術
- 2 3Dモデリングソフトの操作技術
- 3 インテリア、室内空間に関するデザイン技術
- 4 その他（Macにも対応できる勉強）



(4) 高校在学中に取得していることが望ましい資格はありますか。(複数回答可)

1	アーク溶接技能講習	37	2	ガス溶接技能講習	23
3	二級ボイラー技士	15	4	第一種電気工事士	26
5	第二種電気工事士	29	6	電気主任技術者	11
7	電気工事施工管理技術者	11	8	工事担任者	4
9	基本情報技術者	6	10	初級システムアドミニストレーター	5
11	危険物取扱者乙種	50	12	自動車整備士	5
13	小型移動式クレーン	28	14	玉掛技能講習	48
15	小型車両系建設機械	10	16	土木施工管理技術検定	8
17	測量士	2	18	測量士補	2
19	技能士(機械加工、機械検査、電子機器組立、建築大工など)	38	20	普通運転免許	86
21	計算技能検定(1級・2級・3級)	3	22	情報技術検定(1級・2級)	4
23	ワープロ検定(3級・4級)	10	24	パソコン利用技術検定(1級・2級・3級)	44
25	ポケコン検定(基礎・上級)	0	26	建築施工管理技術検定(学科のみ)	9
27	漢字能力検定(2級・3級・4級)	8	28	硬筆書写検定(3級・4級)	2
29	TOEIC	0	30	実用英語検定(2級・3級・4級)	7
31	レタリング検定	0	32	色彩能力検定	2
33	トレース検定	0	34	CG検定	0
35	特になし	12			

上記以外の資格や、資格取得に関するご意見をご自由にご記入下さい。

- ・公害防止管理者
- ・取れるものは何でも若い内に
- ・パソコンが取り扱えることが最低条件
- ・働きながら資格取得してほしい 3
- ・園芸、フラワー技能士
- ・福祉住環境コーディネーター
- ・運転免許取得を推進してほしい。
- ・大型免許
- ・電気主任技術者資格の科目合格が良いので資格への取り組みをしている生徒を採用したい
- ・公害防止管理者

(5) これからの工業系高校卒業生に期待するものは何ですか？

1.	明るさ	51	2.	素直さ	45
3.	粘り強さ	83	4.	創造性	29
5.	協調性	55	6.	健康	39
7.	自分の意見がしっかり言える	49	8.	欠席が少ない	21
9.	リーダーシップがとれる	18	10.	社会人としてのマナー	55
11.	学力優秀	3	12.	基礎的な知識や技能を身につけてい	49
13.	多くの資格を有している	3	14.	部活動で積極的に活動してい	26

その他、ご自由にご記入下さい。

- ・自身の価値に気付き、自身を磨き続けて欲しい
- ・3日、3ヶ月、3年と言われますけど最低でも1年～3年位自分でこの仕事をしたいと思ったなら我慢して働いて欲しい
- ・知識技能も必要とするが、まずは人間性を重視
- ・期待は大きい
- ・コミュニケーション力
- ・面接時と入社後のギャップが大きい
- ・全項目に期待
- ・責任感と自分で考えて行動できる常識的な判断力の持ち主を採用したい
- ・社会人としてのマナーを強く強調します。また、社会人という枠にとられないものを望みます。その人間性は社会に入ってから人教育で成長するものではなく、今までの人生で経験重ねて生まれるものと思っています。普段の生活、学校生活での特にご指導を望みます。
- ・自身の価値に気付き、自身を磨き続けてほしい

(6)工業系高校は今後どの分野に積極的に取り組むべきでしょうか。(複数回答可)

1 普通科目(国語、英語、数学などの基礎科目)の重視	32
2 技術教育(教科書中心の知識を重視した工業教育)の重視	18
3 基礎技能教育(実習を中心とした、基礎基本を重視した幅広い技能教育)の重視	74
4 現場で使える技能教育(より実践的な実務技能教育)の重視	62
5 資格取得の指導	31
6 基本的な生活習慣(基本的な生活態度、言葉遣い、マナーなど)の指導	83
7 職業観・勤労観の育成	65

5 工業系教育の充実には、インターンシップ(企業研修)が重要であるという意見があります。御社ではインターンシップを受け入れていただけますか。

(1)はい

82

実施可能期間 1日(1) 2日(8) 3日(24) 4日(18) 5日(16) 6日(1)

7日(7) 10日(1) 14日(2) 30日(3) 随時

すでにインターンシップを受け入れていただいている場合は、ご意見などを記入下さい。

- ・今まで期間が短かったのもう少し長い方が良い 2
- ・今年度初めて受け入れたが今後も積極的に受け入れたい
- ・本人の社会意識の革命につながれば良いと思ひ受け入れています
- ・CAD・CAMに限る
- ・良いと思ひます
- ・繁忙期は不可
- ・人数や状況による
- ・多方面で有効と考える
- ・今後も協力させていただきます
- ・女性の採用を増やしたい
- ・双方にメリットがあるようにしたい
- ・今年度初めて東京都のインターンシップを受入れ予定です。その結果を見たうえで検討したい
- ・製造業の環境を知り製造業への関心をもつこと

(2)いいえ

29

差し支えなければ、その理由をご記入下さい。

- ・社内の体制が整っていない 8
- ・人的余裕がない 5
- ・安全面 5
- ・研修時間がとれない
- ・研修には適切な職場とは思えない。単純作業しかやらせられない。
- ・仕事は大変だと思っているから。強制しても実にならないから。
- ・少数精鋭にての作業のため
- ・事業拡大による社員教育のための研修により、対応ができない。
- ・毎年建設業協会経由で3名受入れているので、これ以上は難しい。
- ・工場閉鎖
- ・人員もぎりぎり余裕がない。
- ・短期間での受入れが困難なため
- ・実務がどの程度かによる
- ・指導者の時間が取れない 2
- ・人材不足
- ・当年度は業界が不振で受注工事が期待できませんので体験する場面が予測できないため(企業研修には大賛成です)

- ・仕事は大変だと思っているから。強制しても身にならないから
- ・研修には適切な職場とは思えない、単純作業しかやらせられない。
- ・危険な作業が伴うため

(3)どちらともいえない 40

6 5の項目のインターンシップとは別に、授業の一環としてより時間をかけて、実際の実務経験を学ぶことができる、企業実習という方法があります。御社ではこの企業実習を受け入れていただけますか。

(1)はい 36

実施可能期間 1日(1) 2日(1) 3日(8) 4日(8) 5日(3) 6日(1) 7日(4)
10日(1) 14日(3) 20日(2) 30日(2) 90日(1) 随時

すでにインターンシップを受け入れていただいている場合は、ご意見などを記入下さい。

- ・要相談 4
- ・危険でない作業
- ・業界の興味関心が広がる

(2)いいえ 40

- ・社内の体制が整っていない 7
- ・忙しくて対応できない
- ・安全確保の問題 2
- ・現場も、作業内容も毎日変わる為受入れが難しい
- ・短期間での受入れが困難なため
- ・当社工場は半導体製造のクリーンルームのため一度に多数の受け入れは対応が難しいため大勢の方は対応できません
- ・大勢の方は対応できません
- ・資格がないと実務ができない仕事ですので、見学中心となります。従って、インターンシップであれば可能です
- ・製造業の環境を知る程度の協力はできるが長期的には受け入れがたい。管理監督指導及び安全面において長期間は行えない。
- ・当年度は業界が不振で受注工事が期待できませんので体験する場面が予測できないため(企業研修には大賛成です)
- ・人材不足
- ・実務経験をインターンシップで行っている
- ・研修には適切な職場とは思えない、単純作業しかやらせられない
- ・人的余裕がない

(3)どちらともいえない 61

- ・初めて受入、現在見通しが不明の為
- ・検討中

7 その他、学校教育や工業系高校生についての御意見をお聞かせください。

- ・日本の高い工業技術を次の世代に伝えていく教育が必要だと思います。
- ・実務に入り応用出来るための基礎能力が重要。
- ・製造業の環境を知る程度での協力は出来るが長期的には受け入れ難い。管理監督指導及び安全面において長期間が行えない。
- ・健康的で元気ではきはき物事が言える高校生を望みます。特に3年間部活をしっかりと行った高校生が良いと思う。
- ・社会人としてのルールやマナーが専門、大学卒の学生と比べると欠けていると感じる。工業系高校卒の社員に話を聞くと、学校の授業とは全然違うという声をよく聞く。

・進学偏重の風潮は生徒本人のキャリアにとっても良くないと感じています。大学卒業者の新卒採用において地元工業高校出身の大学生が受験してくれるケースがありますが、採用に至ることは極めて少なく「高卒で受験していたら採用していたかもしれない」ということが多いです。生徒が自身の能力の適性を冷静に見極めて進路決定できるような指導が望ましいと思います。

・現代の若者は辛抱強さに欠けていると思います。嫌になったら逃げるといふ方向に行く人が多いと思います。粘り強さ、心の強さを培ってもらいたい。また、目的を持てる、目的に向かって進んでいく、めざす事をしっかり持ていただきたい。技術面では実習を多くしていただき現場で即実践できる方を望みます。

・日本はやはり物作りで生きていく国ではないかと思っております。大企業が海外進出が多くなっておりますが自国で他国に敗ることなく技術向上にて世界に誇れる工業国になれる様な意識と教育をお願いいたします。

・社会人としてのマナーを強く協調します。また、社会人という枠にとらわれないものを強く望みます。その人の人間性は会社に入ってから人事教育で成長するものではなく、今までの人生で経験を重ねて生まれる物と思っています。普段の生活、学校生活でのご指導を望みます。

・人それぞれですが、意外に早く職場の人達とコミュニケーションはうまく行っていると思います。又、卒業間際まで就職が決まらず、先生と共に弊社に来た生徒は、無断欠席が目立ち、他の社員の手前かげに日向にかばい、励ましても反応が今一つです。本人の性格でしょう。しかし、工業高校の生徒は素直な生徒が多いと感じます。

・日本高い工業技術を次の世代に伝えていく教育が必要だと思えます。

・実務に入り応用出来るための基礎能力が重要。

・私どもの山梨の会社は谷村工業卒業生が比較的多く、現在会社の中心的存在になっております。今後もぜひとも谷村工業から社員になっていただきたいと思っております。

・就職するにあたり、とりあえず学校で紹介されたからとか、友達が行くからなど、この道で生活していくという意識が低い。また、三次産業へ転職などもあり、ものづくりの楽しさや達成感を教えていただければと思います。

・工業高校とその上の工業教育との一貫での人材育成を考えて下さい。

・当社は地域密着型の企業を目指しており、若い力を育てていき、社会に貢献する喜びを分かち合いたいと思っています。それには工業高校卒生が最適だと考えていますが、最近の状況では、新規採用もままならず、ご期待に添えなく残念に思っています。当業界に希望が持て、若い力が望んで進路に選ばれるようにするのがまづ先決であり、当社の役割だと考えております。

・毎年、ご推薦頂き、有難うございます。弊社の製造業という職種を良く理解して頂き物作りが好きな生徒さんに就職して頂いておりますが、これからも職種のミスマッチをなくす様に職場見学やインターンシップ等大いに活用して頂きたいと思えます。

・大手の企業は人材を求めて東北へ移転している。地元の工業高校には人材の育成にがんばって欲しい。

・第二種電気工事士及び第一種電気工事を講習受験させているが基礎能力がなく取得できないので、そのような教育を優先してもらいたい。

・自分の夢や目標をしっかり持ってもらい、何のために勉強するか、何のために仕事をするかといったことに向き合える教育。

・校種は問わないが、最低でも3年は勤務することが望ましい。もっと働くことの意欲を出して欲しい。

・仏国では、高校生から将来なりたい仕事を実習する科目が有り、週何日か実務経験をして資格を取得してその職業へ就く人が多い。何が合っているか学べる。

・産官学の連携により、技能指導者(教育)の育成を推進していただきたい。(ex、3年間の長期スパンで教員を企業へ実習に行かせる)・教員のスキル、モチベーション向上、ゆくゆくはその人に接する生徒への影響も生徒のモチベーション向上につながっていくと考える。

・全体的に自立心が低く粘り強さが無いと思われる。

- ・報告書が書ける程度の教育を望む
- ・県産業、立地等を踏まえて工業系教育の質量共に充実を望む。普通科の生徒で物理(力学・電磁気)を学ばない生徒がいるのが問題。県産業人材育成のため、上部教育機関(職業訓練校)への希望者全入制を望む
- ・生徒を見る限り、生徒の指導等十分と考える
- ・仏国では、高校生から将来なりたい仕事を実習する科目が有り、週何日か実務経験をして資格を取得してその職業へ就く人が多い。何が合っているか学べる。
- ・名門、甲府工業の超優秀な人材を切望する
- ・仏国では、高校生から将来なりたい仕事を実習する科目が有り、週何日か実務経験をして資格を取得してその職業へ就く人が多い。何が合っているか学べる。
- ・仏国では、高校生から将来なりたい仕事を実習する科目が有り、週何日か実務経験をして資格を取得してその職業へ就く人が多い。何が合っているか学べる。
- ・2年連続で甲工高生を採用しているが、両者とも国語力が非常に悪く残念に思う。専門知識も必要ですが国語力が社会では如何に重要か検討して頂きたい。
- ・知識も必要であるがコミュニケーション能力の人材を育てて欲しい。
- ・働くことの意味必要性をもっと理解させることと自分の進路をもっと見極められるように指導して欲しい。
- ・技術習得は勿論ですが、違和感のない容姿を指導して欲しい。
- ・弊社定着率が高い方である。希望者への説明、労働環境向上に務めている。今後採用期間を12月まで延長し、じっくり進路選択ができる体制を整える。
- ・基本的なモラルを教えて欲しい。歩き方、話し方、服装など最低限からの職場教育はロスでしかありません。
- ・インターンシップ、工場見学につきましては可能な限り対応させていただきますので、いつでもお声を掛けてください。
- ・山梨の将来のために高専の設置も望ましいと思う
- ・若い時期に社会にでるのであれば、職業観・人生観は非常に大事である。職場に出ることに対して、大きな覚悟をしてでてきて欲しい。そこが原動力になる
- ・工業高校出身の方は、高校で学んだことを生かすことができる職業選択をしていただきたい。
- ・クラブ活動から「粘り強さ」と先輩を敬う人間性を学びとる事を期待しています
- ・辛抱強くしっかり自分の意見を主張できる人材を育てて欲しい。企業を腰掛け程度に考えている傾向が伺える(工業生に関わらず)
- ・強電系の学生であれば可能性はあります。

平成20年度「特色ある高校づくり支援事業」実施計画書（まとめ）

学校番号	8	学校名	甲府工業高等学校
------	---	-----	----------

1 事業内容	<p>「ものづくり」、「進学」、「部活動」の各分野で全国レベルの工業高校を目指す「スーパー甲府工高構想」を推進し、生徒の自己実現をサポートする。</p> <p>(1)各年ごとに特別推進事業を掲げ3年計画で実施する。 1年目（平成19年度）：高度なものづくりへのチャレンジ 2年目（平成20年度）：学外との連携及び交流の推進 3年目（平成21年度）：「スーパー甲府工高」を実現するための学校設定科目の実施</p> <p>(2)自己実現には将来を見通したキャリア教育が必須であり、3年間を通し推進する。</p> <p>(3)これからの工業には、「技術・技能」だけではなく「芸術」との融合が期待されている。3年間を通じ芸術に触れ、その基礎となる人間性の涵養を推進する。 1年目（平成19年度）：日本の古典芸能の鑑賞 2年目（平成20年度）：演劇の鑑賞 3年目（平成21年度）：音楽の鑑賞</p>
2 事業の計画 実施時期 対象学年及び生徒等	<p>(1)高度なものづくりにたいし、学外との連携及び交流の推進 実施時期：通年 対象学年・生徒：3学年・各科の3年生</p> <p>(2)キャリア教育の推進 実施時期：通年 対象学年・生徒：全学年・全生徒（インターンシップは1年生全員）</p> <p>(3)演劇の鑑賞 実施時期：平成20年10月 対象学年・生徒：全学年・全生徒</p>

(その1)

1 事業内容	<p>「ものづくり」、「進学」、「部活動」の各分野で全国レベルの工業高校を目指す「スーパー甲府工高構想」を推進し、生徒の自己実現をサポートする。</p> <p>(1)各年ごとに特別推進事業を掲げ3年計画で実施する。 1年目（平成19年度）：高度なものづくりへのチャレンジ 2年目（平成20年度）：学外との連携及び交流の推進 3年目（平成21年度）：「スーパー甲府工高」を実現するための学校設定科目の実施</p>
2 事業の目標	<p>◎「スーパー甲府工高」を実現するため、専門教科の深化を目指す。3年間の学びを通じまた企業や大学と連携しながら各科の特性を生かした高度なものづくりを推進し、各種大会等へ参加および学科関係の資格も取得する。</p>
3 事業の計画 実施時期 対象学年及び生徒等	<p>(1)高度熟練技能士等の招聘と各科の特性を生かした各種大会への積極的な参加をとおり、高度な専門技術・技能を身に付ける。 実施時期：通年 対象学年・生徒：全学年・全生徒</p> <p>(2)企業や大学と連携し、各科の技術力を結集し、総合的かつ学際的な研究に取り組む。 具体的なテーマとして、省エネルギー・代替エネルギー・リサイクル技術・情報技術（IT）等の基礎研究を行う。 実施時期：通年 対象学年・生徒：全学年・関連する課題研究及び部活動等の参加生徒</p> <p>(3)研究成果を公表する。 実施時期：通年 対象生徒：全学年・全生徒</p>

(その2)

1 事業内容	自己実現には将来を見通したキャリア教育が必須であり、1年次から3年次まで計画的に推進する。 (1)1年次の「私の未来設計図(総合的学習の時間)」で外部講師による職業講話を実施し、働くことの意義を知る (2)1年次の2学期あるいは3学期にインターンシップを実施し、各科の特性にそった職業を体験することにより、これから専門的に学ぶ学科の特性を知り、深く学ぶための動機付けを行う
2 事業の目標	3年間を通じた体系的なキャリア教育を推進することにより、生徒の自己実現をサポートしていく。 特に本校の特性を生かし、早い時期(1年次)に、専門学科の仕事を体験することにより、ものづくりに対する興味・関心を高め、その後の高度な内容の学習への取り組みを促すとともに、工業高校生として望ましい職業観を育成する。
3 事業の計画 実施時期 対象学年及び生徒等	(1)職業人講話を聴く(総合的学習の時間) 実施時期:平成20年10月 対象学年・生徒:1年生全員 (2)インターンシップの実施 実施時期:平成20年12月 対象学年・生徒:1年生全員 (3)社会人育成講座 実施時期:平成21年1月 対象学年:2.3年生全員

(その3)

1 事業内容	これからの工業には、「技術・技能」だけではなく「芸術」との融合が期待されている。3年間を通じ芸術に触れ、その基礎となる人間性の涵養を推進する。 1年目(平成19年度):日本の古典芸能の鑑賞 2年目(平成20年度):演劇の鑑賞 3年目(平成21年度):音楽の鑑賞
2 事業の目標	職業高校のような専門性の強い学習を続ける中、人間性を豊かにするには、専門以外の世界にも接する必要がある。著名人の苦悩などを描いた演劇を鑑賞することにより、自分自身に置き換えて自問自答をすることは大事なことと思う。何かを発見したり、考えを新たにすることを生徒に与えるための企画としたい。
3 事業の計画 実施時期 対象学年及び生徒等	内容:劇団「道」主催の「ミレーの発奮」 会場:山梨県民文化ホール 実施時期:平成20年10月 対象学年・生徒:全学年生徒及び全教職員と鑑賞を希望する保護者

インターンシップ（就業体験）実施要項

甲府工業高等学校

- 1 目的：生徒自らが地域産業を体験することにより、自らの進路を明確にし、学習意欲を高め、職業研究に対する意欲や地域の一員としての自覚を喚起し、必要な能力・態度を身につけ、望ましい勤労観・職業観を育むとともに、自らの社会性を高めてゆく。
- 2 実施期間：
 - ①平成20年 8月 5日（火）～ 7日（木）（3日間）
 - ②平成20年 8月19日（火）～ 21日（木）（3日間）
 - ③平成20年12月 9日（火）～ 11日（木）（3日間）
 - ④平成21年 3月11日（水）～ 13日（金）（3日間）
- 3 対象生徒：1学年
機械科、電気科、電子科、建築科、土木科 合計280名
- 4 実施企業：別紙依頼企業（開拓中）
- 5 事前指導
下記の日程で、インターンシップの意義、就業上の緒注意、安全対策などについて生徒に事前指導する。

講演会：7月8日（火）11：10～12：10 （1年生全員280名）
講師：山梨県経営者協会 専務理事 一瀬茂夫 様
- 6 安全対策
 - ・安全には十分配慮する。
 - ・学校でも事前に安全教育を実施する。
 - ・万が一ケガ等の場合、日本スポーツ振興センターの災害共済給付（加入済）とインターンシップ等体験活動傷害保険（学年にて加入）にて対応する。
 - ・損害賠償保険については、全高P連賠償責任補償制度（学年にて加入）にて対応する。
- 7 就業時間：詳細は各企業との調整
- 8 作業日誌について
 - ・作業日誌は、学校側で準備。
 - ・毎日、終業後に作業日誌に記載し、指導担当者の検印を受ける。
- 9 1日目のオリエンテーションと、最終日の反省会について
 - ・各企業で、企業毎に実施。
- 10 服装について
 - ・作業衣～生徒は学校の実習着を持参し、会社で着替える。
 - ・作業靴～運動靴で出勤し、作業に入る。
※下記の企業では安全靴の貸出しをする。
 - ・作業帽～学校の実習帽を着用、但し下記の企業を除く。
- 11 交通手段：自宅から会社への往復は、各自が最適な方法で行う。
交通安全には十分注意する。
- 12 保護者への了解と承諾書（趣意書の配布と承諾書の回収）
- 13 本校教職員による、期間中の生徒への指導について
工業科・1学年・進路指導部職員が、各企業を訪問する。
- 14 その他
 - ・やむを得ない事情で欠勤する場合、必ず就業先企業へ電話連絡する。
 - ・緊急時の学校への連絡先（電話番号055-252-4896）
インターンシップ工業科担当（大野）
1学年主任（永田）
インターンシップ係（中沢）
 - ・実施後の生徒の評価とアンケートを各企業にお願いし、今後の参考とする。
- 15 参加生徒名簿および通勤方法
 - ・別紙記載（今後、作成予定）

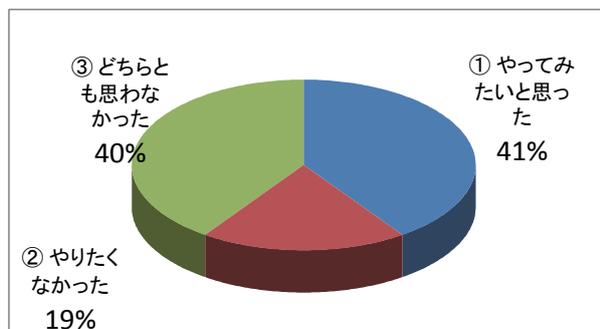
H20年度 インターンシップ実施状況

期間	8月5～7日	8月19～21日	12月9日～11日	合計
のべ会社数	43社	41社	27社	111社
生徒数	106名	94名	77名	277名

生徒インターンシップについてのアンケート結果

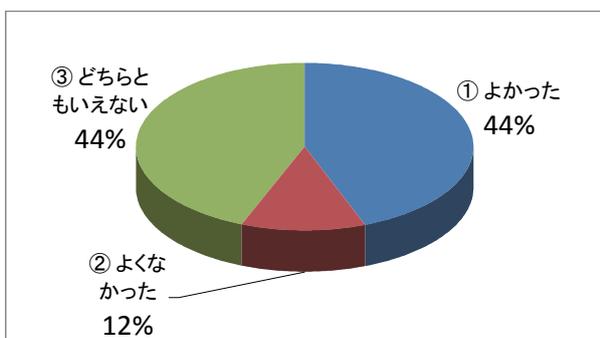
1 インターンシップを体験する前の気持ちについて

	人数
① やってみたいと思った	90
② やりたくなかった	43
③ どちらとも思わなかった	90



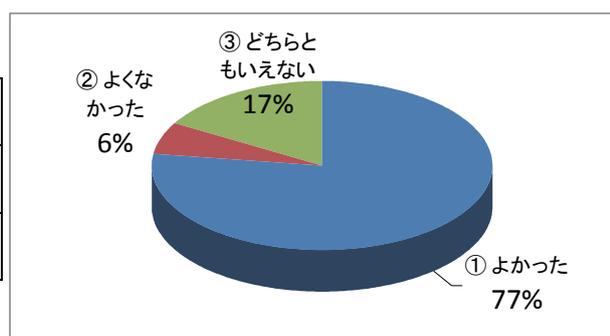
2 インターンシップで自分が行った仕事(作業)に対し、実施以前に持っていたイメージについて

	人数
① よかった	100
② よくなかった	27
③ どちらともいえない	99



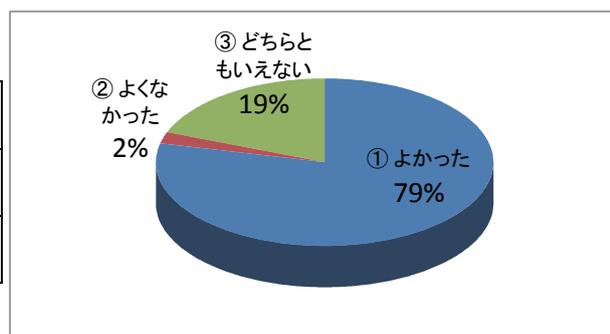
3 実際に行ってみた仕事(作業)についてイメージについて

	人数
① よかった	176
② よくなかった	14
③ どちらともいえない	38



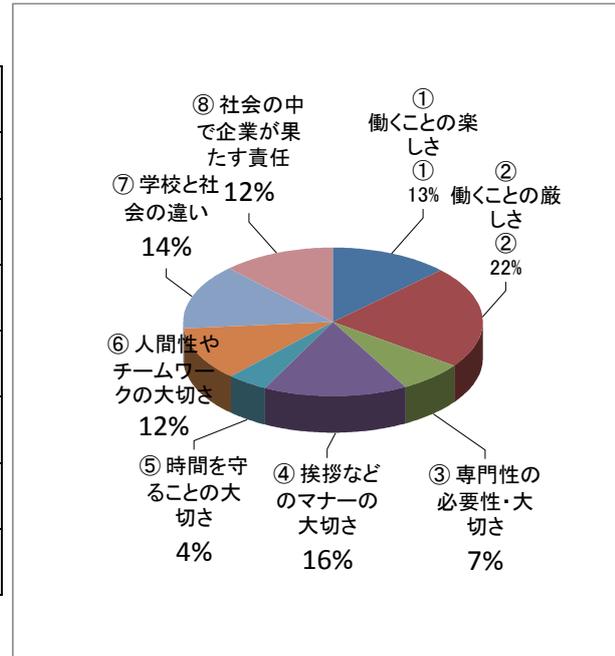
4 インターンシップ期間中の自分の取組み方について

	人数
① よかった	181
② よくなかった	5
③ どちらともいえない	44



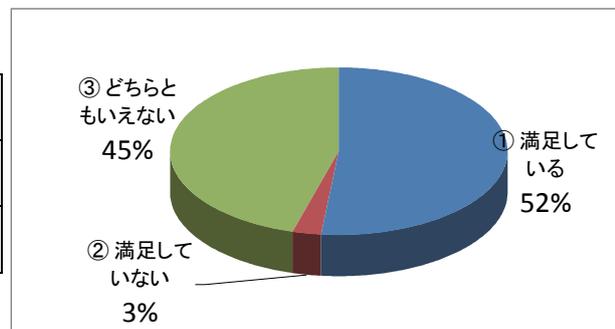
5 インターンシップでどんなことを主に学びましたか(2つまで)

	人数
① 働くことの楽しさ	60
② 働くことの厳しさ	103
③ 専門性の必要性・大切さ	33
④ 挨拶などのマナーの大切さ	73
⑤ 時間を守ることの大切さ	20
⑥ 人間性やチームワークの大切さ	55
⑦ 学校と社会の違い	66
⑧ 社会の中で企業が果たす責任	57



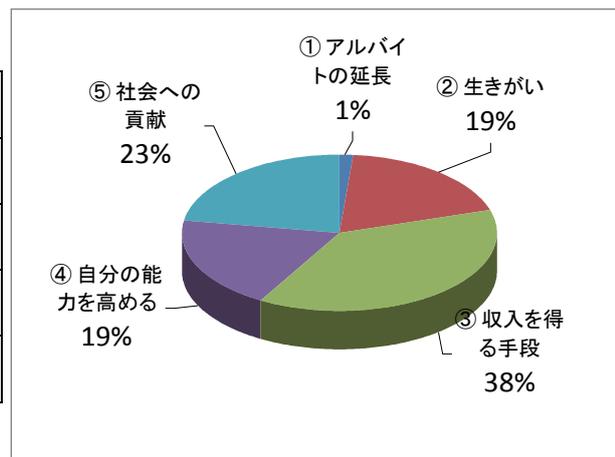
6 インターンシップを終わってみての気持ちについて

	人数
① 満足している	118
② 満足していない	6
③ どちらともいえない	104



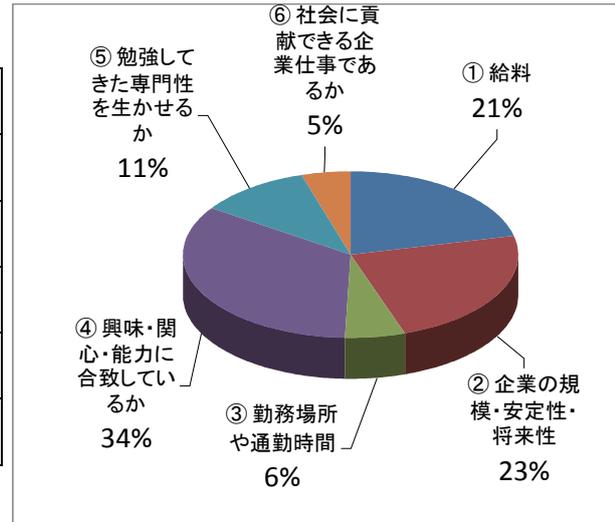
7 「働く」ということは、どういうことだと考えますか。(2つまで)

	人数
① アルバイトの延長	5
② 生きがい	72
③ 収入を得る手段	145
④ 自分の能力を高める	73
⑤ 社会への貢献	86



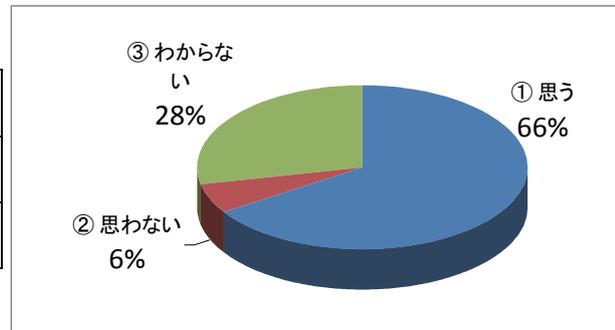
8将来において就職先決定の重要なポイントは何ですか。(2つまで)

	人数
① 給料	83
② 企業の規模・安定性・将来性	91
③ 勤務場所や通勤時間	22
④ 興味・関心・能力に合致している	132
⑤ 勉強してきた専門性を生かせるか	42
⑥ 社会に貢献できる企業仕事である	18



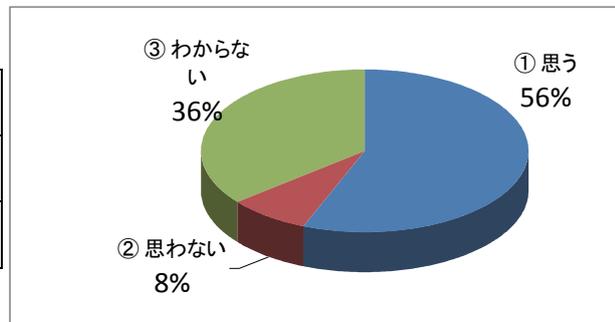
9今回のインターンシップが自分の進路決定に役立つと思いますか。

	人数
① 思う	147
② 思わない	13
③ わからない	63



10今回のインターンシップが今後の学校生活に影響を与えると

	人数
① 思う	125
② 思わない	18
③ わからない	80



11インターンシップについて学校や企業が(事業所)に対しての要望があったら書いてください。

学校への要望

・実施期間を増やして欲しい(2)、自分で職場を選びたい(2)
・企業を選びたい(4)
・希望者だけでやってほしい ・毎年続けてほしい
・もっとやりたかった・2回目をした
・期間を長くしてほしい(3) ・会社のことを調べていった方がよかった
・会社が遠い
・1年生では早すぎる

企業(事業所)への要望

・もっと重要な仕事をさせてほしい
・多く採用してほしい

講座型学習活動(プランA)の具体的な活動内容について	
実施予定月	2008年9月
実施場所	山梨県立甲府工業高校
具体的な内容	(活動内容及び実験、観察等の体験的・問題解決的な内容を具体的に記入すること。) (欄が足りない場合は、続きを別紙(様式自由)に記入すること。)
ラジオコントロールによる遠隔操作ができるよう、受信機・リレー・マイクロスイッチ・電動アクチュエータなどをトラクター・バックホーに取り付ける。またCCDカメラを搭載し遠隔操作が正確に行えるよう装置一式も設置する。動作が正確であれば、ワンチップマイコン・インターフェース・I/Oボード等を取り付け、山梨大学と共同でプログラムを開発し、トラクター等の自律走行を目指す。	
	2008年12月
実施場所	山梨県立甲府工業高校・県立農業試験センター
具体的な内容	(活動内容及び実験、観察等の体験的・問題解決的な内容を具体的に記入すること。) (欄が足りない場合は、続きを別紙(様式自由)に記入すること。)
遠隔操作ならびに自律走行の試作・試行と平行して、バイオ燃料(バイオディーゼル燃料およびエタノール)を適量混合した燃料を使用して、エンジン性能の変化を100%化石燃料と比較していく。また、排気ガスの成分もどのように違うかを山梨大学およびトラクターメーカーの力を借りて検証を行っていく。	
実施予定月	月
実施場所	
具体的な内容	(活動内容及び実験、観察等の体験的・問題解決的な内容を具体的に記入すること。) (欄が足りない場合は、続きを別紙(様式自由)に記入すること。)
連携教育の実績	SPPの実施実績があれば全て記載すること。また、類似の取組についても記載すること。
<p>昨年度からの引き続きの研究内容になります。大学との連携は2回ほど行い、ワンチップマイコンの概論を出前授業の形で実施しました。概論といえどもワンチップマイコンのハードウェアは生徒にとって難しいものでした。現在はプログラミングのノウハウを学習中です。バイオ燃料は我々にとって遠い存在に思っていたのですが、大学に出向き、バイオディーゼル燃料およびエタノール等を実際に手にし、また製造設備を見学するなかで、今年度は本格的に使用してみたいという思いです。</p>	
<p>* 記入上の注意 ・用紙が足りない場合は、シートのコピー等を行い記入すること。 ・「実施予定月」については、予定として可能な範囲で記入すること。</p>	

平成20年度 国語力向上実践事業計画書

平成20年4月1日

学校番号	8	学校名	甲府工業高等学校	校長名	戸田 泰明	担当者名	長谷川 琢也
------	---	-----	----------	-----	-------	------	--------

1	事業の名称	適切に表現する能力を養う指導（話し方・プレゼン）
2	事業の具体的な目標	国語力の中の「話すこと」という分野は、高校の国語科の授業では、なかなか指導が難しい。しかし、就職試験や進学試験で、面接試験やプレゼンテーション試験などが数多く実施されている。いかに適切に、また効果的に第三者に自分の主張を伝えることが出来るかということを目標とし、以下のような事業を計画した。 アナウンサーを講師として、「正しい話し方・正しい聞き方」教室の実施
3	事業の概要について	今年で3回目になるが、放送局のアナウンサーを講師とし、「話し方・聞き方の基本」の講義をしてもらう。「発声の方法」・「話す際の効果的な表情・姿勢・視線」・「わかりやすく話す方法」・「正しい敬語の使い方」・「どのような言葉を選ぶか」・「良い聞き方」等をテーマにした内容とする。
4	実施時期について	平成20年7月上旬から中旬（全1回 90分）
5	実施予定場所について	甲府工業高校 視聴覚室
6	対象予定生徒等について	3学年生徒全員（約270名）
7	事業実施に際して発生する経費について（できるだけ具体的に、記入してください。）	講師謝礼(交通費等含む)

平成20年度 国語力向上実践事業中間報告書

平成20年11月11日

学校名 甲府工業高等学校	校長名 戸田 泰明	担当者名 長谷川 琢也
--------------	-----------	-------------

1	事業の名称	適切に表現する能力を養う指導（話し方・プレゼン）
2	事業の具体的目標 （修正・変更等がある場合は、その理由も添える。）	国語力の中の「話すこと」という分野は、高校の国語科の授業では、なかなか指導が難しい。しかし、就職試験や進学試験で、面接試験やプレゼンテーション試験などが数多く実施されている。いかに適切に、また効果的に第三者に自分の主張を伝えることが出来るかということを目標とし、以下の通り計画した。 アナウンサーを講師として、「正しい話し方」の講義
3	事業概要について （修正・変更がある場合は、その理由も添える。）	①放送局のアナウンサーを講師とし、「話し方・聞き方の基本」の講義をしてもらう。 「発声の方法」・「話す際の効果的な表情・姿勢・視線」・「わかりやすく話す方法」・「正しい敬語の使い方」・「どのような言葉を選ぶか」・「良い聞き方」等をテーマにした内容とする。
4	事業の進捗状況（事業効果・成果に至る段階や過程の状況）	①平成20年7月10日（木） 山梨放送（YBS）アナウンサー 浅川 初美子氏 を講師として招き、正しい話し方・聞き方、話す姿勢・聞く姿勢、地元の方言、明瞭な発音方法などの内容で興味のわく話を90分間していただいた。明瞭な発音方法などは、生徒と一緒にやって行い生徒たちには貴重な経験と思える内容でした。
5	事業遂行に関して、強みとなっている側面。特に学校内部の状況に関して。	本校の生徒は、進路関係で企業の人事関係者・大学の事務局の方・専門学校の講師の方との接触は他の学校と同じくらいと思うが、今回のようにそれ以外社会人との交流はほとんどないので、今回は生徒にとって大きな刺激になったと感じています。予算が十分であれば、複数のアナウンサーを講師とし全校生徒を対象とした大きな企画も考えられると思います。
6	事業遂行に関して、弱点となっている側面。特に学校内の状況に関して。	放送局などに生徒たちが出向いて、番組制作の場を直に見学や参加出来るように学校の体制が整い、また正しい日本語の使い方や正確な固有名詞の表現法などを学習できるようになればと思いますが、現実にはそこまで柔軟な体制が組みません。（毎年考えますが）しばらくは今の状態が続くと思われます。
7	事業遂行についての期待・ニーズなど、支援的な状況と考えられること。	社会人との接触による、正しい話し方・聞き方、話す姿勢・聞く姿勢を養うのも大変大事なことであり、これからもいろいろな方法で模索していかねばならないと思うが、これら以外にも漢字検定・模擬試験などへの自主的参加を奨励するような校内の学習環境を整えていくことも重要と思われます。
8	事業遂行を危うくする要因など、阻害的な状況と考えられること。	特に思いつくようなことはありませんが、強いていえば、いろいろある事業計画を強行することで、生徒たちの普段の学習リズムを崩す危険性が考えられます。年間行事の中でバランスを考えることも必要だと思います。
9	その他	

地域産業の担い手育成プロジェクト事業

(クラフトマン21)への取り組み

山梨県立甲府工業高等学校

はじめに

この事業は、ものづくりに関わる高校と地元企業および行政が連携して、若い工業人を育成するための教育プログラムを開発し、また教育・行政・企業の連携の在り方などを検討・実施し、地域活性化のための標準モデルを構築するという位置づけを持っている。以下に、本年の実施状況、平成21年度の実施計画について報告する。

昨年度は、事業採択の可否及び予算執行等の遅れにより、事業開始時期が10月末からとなり、実質的には僅か5ヶ月という時間的制約のなかでの取り組みであったが、本年度は年間計画に沿って、本事業の骨子となる4つの取り組み全てについて計画どおり実施することができた。しかも、実施対象学科を、継続の機械科に加えて電気科にまで拡大しての取り組みとなった。

機械科では、生徒の企業実習は、基礎・基本の学習が中心となる学校教育では得がたい分野に関する先端的、実践的な技術・技能の習得をねらいとして実習テーマを編成、連携企業8社との調整を図りながら実習を展開した。内容は、精密機器、光学・OA機器、半導体製造装置などの製造技術である機械加工、金属熱処理、そしてCAD製図など、教育プログラムに沿って実施することができた。

次に、企業技術者等による学校での実践的指導では、企業の高度熟練技術者を3級技能検定実技講習及び二足歩行ロボットの実技指導者として招き、機械加工や組み立てなどの実技指導講習を実施した。

教員の高度技術習得については、機械科職員は、企業現場で、実際使われている設備、防具等をお借りして、特殊技能を必要とするステンレス溶接にチャレンジした。

また、企業との共同研究では、研究教材機器を昨年度の農耕用テラーからトラクターに換え、自走又は遠隔操作走行システムなどの研究にも取り組んだ。

電気科では、電気科課題研究の一テーマに取り込み、題材を「シーケンス制御技術」とし、課題研究の時間に、企業現場に出向いての技術研修、そして企業技術者による講義(授業)では、担当教員とのチームティーチングの講義となった。内容は、シーケンス制御回路設計のプロセスとその論理、そして「制御技術開発の概念」に関する研究となった。

来年度は、本事業3年目でまとめの年度となる。本事業完遂以降、ここで開発された教育プログラムを他学科系列への啓発・普及を図ることが本事業の趣旨であることから、その体制づくりを並行して進めていくことになる。

1 本事業における取組等

(1) 研究のねらい等

これまで、本校独自の教育課程において学習意欲の向上を図り、主体的に学ぶ生徒の育成に努めながら、公共機関や地元企業と連携して職業意識形成のための諸活動を実践してきた。本研究においては、これまでの指導の流れを継承しながらも、従来の学校と企業の関係(学校は人材を育成し、企業は生徒を採用する)から一歩踏み込み、学校と企業そして地域産業に関わるすべての公共機関が連携し、有意な人材育成のための企業による学校への支援の在り方について検討し、具体的な職業教育プログラムの開発や教員の技術向上の取り組みを実践するによって、地域産業の期待に答えられる人材を育て上げ、地域社会経済の発展に寄与、貢献することを目的とする。

(2) 実施報告

以下に、平成20年度地域産業の担い手育成プロジェクト事業の実施内容一覧、及び主な実施内容を挙げる。

平成20年度 地域産業の担い手育成プログラム実施内容一覧
(平成20年度 甲府工業高校等実践教育導入事業)

実習名	実施日		実習時間 (一人当たり)	実施場所	企業名・講師名	学校名	参加学科	学年	参加人数	教育課程上の 位置づけ
	始期	終期								
生徒の現場実習(見学以外)										
企業見学	H20.7.10		1	企業2社	㈱牧野フライス製作所・㈱ルネサステクノロジ	甲府工業	機械科	1年	80	工業技術基礎
企業見学	H20.11.21		1	企業2社	横河電機・テクノフエアー	甲府工業	機械科	1年	80	工業技術基礎
企業見学	H20.10.21		1	企業2社	キャノンアネルハ・牧野フライス製作所	甲府工業	機械科	2年	80	機械実習
合計									240	
生徒の現場実習(見学のみ)										
企業実習	H20.5.13	H20.6.10	4	4企業9社	(有)丸真熱処理、(株)電溶工業、(株)浅川熱処理、(株)渡辺精機、(株)サンシン精工、(株)オギハラ、(株)峰岸商会、藤精機、(有)小穴製造	甲府工業	機械科	3年	80	機械実習
企業実習	H20.10.16	H20.12.15	4	4企業7社	(有)丸真熱処理、(株)電溶工業、(株)浅川熱処理、(株)渡辺精機、(株)サンシン精工、(株)峰岸商会、藤精機、(株)はくばく、(株)アイメック	甲府工業	機械科	2年	68	機械実習
企業実習	H20.9.4	H20.9.26	4	6企業2社		甲府工業	電気科	3年	12	課題研究
合計									160	
技術者等による学校での実践的指導										
旋盤3級	H20.5.30		1	3企業1社	ハナニツクアクトリジョーンス	甲府工業	機械科	2年	6	機械実習
旋盤3級	H20.12.10		1	3企業1社	ハナニツクアクトリジョーンス	甲府工業	機械科	3年	12	課題研究
講義	H20.12.19		1	1企業1社	松下政経塾	甲府工業	機械科	1年	80	総合的学習
ソーテックス制御	H20.6.5	H20.11.14	10	15企業1社	(株)アイメック	甲府工業	電気科	3年	12	課題研究
講義(無線制御)	H20.5.22	H20.9.12	6	9企業1社	(株)アイメック	甲府工業	電気科	3年	12	課題研究
講義	H20.12.19		1	1企業1社	松下政経塾	甲府工業	電気科	1年	80	総合的学習
講義	H20.12.19		1	1企業1社	松下政経塾	甲府工業	電気科	3年	80	電気実習
合計									282	
教員の高度技術習得										
漆接研修	H20.8.7		1	8企業1社	鉦田鉄工	甲府工業			2	
旋盤・フライス盤研	H21.3.9		2	12企業1社	ハナニツクアクトリジョーンス	甲府工業			2	
企業研修	H20.4.17	H20.6.26	8	32企業1社	(株)ウイנס	甲府工業			1	
合計									5	
その他の活動										
共同研究	H20.4	H21.2	200	企業1社	岩間農機・ヤンマー農機	甲府工業	機械科		10	課題研究部活動
二足歩行ロボットの製	H21.2.17	H21.2.18	2	3企業1社	アイメック	甲府工業	機械科	2年	8	機械実習
意見交換会	H21.1.29									
合計									18	

「ものづくり人材育成のための専門高校・地域産業連携事業」	
2008年 7月10日(木)	1年生企業見学

1 目的

ものづくりに関わる高校と地元企業および行政が連携して、若い工業人を育成するための教育プログラムを開発し、また教育・企業・行政の連携の在り方などを検討・実施し、地域活性化のための標準モデルを構築する。

2 対象学年・生徒数

1学年 機械科1組(40名) 機械科2組(40名)

3 見学企業

	企業名	学習領域	企業の製品
機械科	㈱ルネサステクノロジ	半導体製造	半導体のウエハー上のプリント等
	㈱牧野フライス製作所	工作機械製造	マシニングセンター等工作機械製造



4 見学実施日

平成20年7月10日(木)

5 時間

学校出発(9:30)＝1社目見学(10:30～12:00)＝昼食(12:00～13:30)＝
2社目見学(13:30～15:00)＝学校帰着(16:00)

6 移動手段

大型バス2台(各組1台)

7 引率

1組 鈴木 健治(担任) 長田 宇
2組 後藤 詠一(担任) 永田 典弘

①筆記用具、事前研究資料の他、必要に応じて帽子、上履きを用意すること。

②服装は制服を着用すること。



「ものづくり人材育成のための専門高校・地域産業連携事業」	
2008年 10月16日・10月21日 2008年 10月27日・12月15日	2年生企業実習

実施日・実施クラス・実施授業

機械科2年1組・機械実習

10月16日(木)・11月13日(木) 4校時～6校時

機械科2年2組・機械実習

10月27日(月)・12月15日(月) 4校時～6校時

実施企業

10月16日
浅川熱処理(株)
(有)丸眞熱処理
藤精機(株)
(株)峰岸商会

11月13日
浅川熱処理(株)
(有)丸眞熱処理
藤精機(株)
(株)峰岸商会

10月27日
(株)峰岸商会
(株)渡辺精機
(株)サンシン精工
(株)電溶工業

12月15日
藤精機(株)
(株)峰岸商会
(株)渡辺精機
(株)サンシン精工



「ものづくり人材育成のための専門高校・地域産業連携事業」	
2008年 5月19日・6月9日 2008年5月13日・6月10日	3年生企業実習

実施日・実施クラス・実施授業
 機械科3年1組・機械実習
 5月13日(火)・6月10日(火) 1校時～3校時
 機械科3年2組・機械実習(MC)
 5月19日(月)・6月9日(月) 1校時～3校時
 実施企業

5月13日 (株)渡辺精機 藤精機(株) (株)峰岸商会 (有)小穴鋳造所	5月19日 (株)渡辺精機 (株)電溶工業 (株)峰岸商会 (有)小穴鋳造所
6月9日 (株)サンシン精工 (株)オギハラ (有)丸眞熱処理 浅川熱処理(株)	6月10日 (株)サンシン精工 (株)オギハラ (有)丸眞熱処理 浅川熱処理(株)



山梨県政だより
「ふれあい」に取り上げられました

「ものづくり人材育成のための専門高校・地域産業連携事業」	
2008年 7月21日	高度熟練技能者の旋盤検定3級講習

- 1 日時
平成20年5月30日(金) 9:00～11:30
- 2 会場
本校機械加工実習室・普通旋盤
- 3 対象者
(1) 普通旋盤作業の見学
機械科3年1組(3名・受験者)
機械科3年2組(3名・受験者)
- 4 内容
高度熟練技能者による3級技能検定機械加工(普通旋盤作業)の実技講習指導を見学する。
- 5 講師
山梨県職業能力開発協会
技能振興課 課長 山口 安男 様
" 推進員 篠原 勝雄 様
パナソニック ファクトリーソリューションズ(株)
高度熟練技能者(旋盤)
山崎 正弘 様
- 6 日程
(1)【開講】 9:00～9:10
講師紹介及びあいさつ、内容説明、日程確認
(2)【機械加工実技講習】 9:10～11:25
普通旋盤作業
(3)【閉講式】 11:25～11:30
まとめ(高度熟練技能者より)



「ものづくり人材育成のための専門高校・地域産業連携事業」	
2008年8月8日	教員研修・溶接部門

**山梨県高等学校
工業教育部会機械系分科会**

- 1 日 時
平成20年8月8日(木)
- 2 場 所
雇用能力開発機構山梨センター
- 3 内容安全作業について
防具・服装・設備点検
溶接実技
アルミ溶接
- 4 受講人数 約20名



「ものづくり人材育成のための専門高校・地域産業連携事業」	
2008年 6月～11月	3年生企業実習及び講義(電気科)

9月4日
(株)はくばく

- 企業実習
- ・変電設備制御
- ・乾麺製造機器



10月23日
(株)アイメック

- 講 義
- ・無線遠隔制御
- ・技能検定講習



2 平成21年度実施計画

以下に、平成21年度地域産業の担い手育成プロジェクト事業の実施計画一覧を上げる。

平成21年度 地域産業の担い手育成プログラム実施計画一覧
(平成21年度 甲府工業高校等実践教育導入事業)

実習名	実施日		実習時間 (一人当たり)	実施場所	企業名・講師名	学校名	参加学科	学年	参加人数	教育課程上の 位置づけ
	始期	終期								
生徒の現場実習(見学以外)										
企業実習	H21.5.18	H21.6.9	6	企業9社	(有)丸真熱処理、(株)電溶工業 (株)、浅川熱処理(株)、(株)渡辺精 機、(株)サンシン精工、(株)オキハ ラ、(株)峰岸商会、藤精機(株)、 (有)小穴鋳造	甲府工業高校	機械科	3	77	機械実習、企業 実習
企業実習	H21.8.28	H21.9.11	6	企業7社	(有)丸真熱処理、(株)電溶工業 (株)、浅川熱処理(株)、(株)渡辺精 機、(株)サンシン精工、(株)峰岸 商会、藤精機(株)	甲府工業高校	機械科	2	77	機械実習、企業 実習
企業実習	H21.8.27	H21.9.11	8	企業4社	浅川熱処理(株)、(株)渡辺精 機、(株)峰岸商会、(有)小穴鋳 造	甲府工業高校	機械科	3	18	課題研究
企業実習	H21.7	H21.11	6	企業4社		甲府工業高校	電気科	3	12	課題研究
合計									184	
生徒の現場実習(見学のみのみ)										
企業見学	H21.7.16		1	企業2社	フアナツク(株)、(株)ネサステク ノロジー	甲府工業高校	機械科	1	80	工業技術基礎
企業見学	H21.11.19		1	企業2社	THK(株)、(株)マニエフアテ クチャリ(株)	甲府工業高校	機械科	1	80	工業技術基礎
企業見学	H21.10.20		1	企業4社	フアナツク(株)、(株)ネサステク ノロジー、(株)キトー、(株)マニエ フアテック(株)	甲府工業高校	機械科	2	80	機械実習、企業 実習
合計									240	
技術者等による学校での実践的指導										
旋盤3級	H21.12.17		1	企業2社	ハソニックフックノリコーポ レーション	甲府工業高校	機械科	2	12	機械実習
旋盤3級	H21.5.21		1	企業2社	ハソニックフックノリコーポ レーション	甲府工業高校	機械科	3	12	課題研究
機械検査3級	H21.11.26	H21.12.4	2	企業2社	THK(株)、(株)中家製作所	甲府工業高校	機械科	3	10	課題研究
金属熱処理3級	H21.6.18	H21.6.19	2	企業2社	浅川熱処理(株)、(有)丸真熱処理 (株)アイメック	甲府工業高校	機械科	3	10	課題研究
ソーダス制御	H21.4	H21.7	3	企業2社	(株)アイメック	甲府工業高校	電気科	3	12	課題研究
無緯制御	H21.9	H21.11	3	企業2社	(株)アイメック	甲府工業高校	電気科	3	12	課題研究
講義	H21.12		1	企業2社		甲府工業高校	機械・電気科	1	240	総合的学習
合計									240	
教員の高度技術習得										
溶接研修・制御研修	H21.5	H21.5	3	企業6社	飯田鉄工	甲府工業高校			10	
旋盤等研修・電子電 気機器組立研修	H21.8	H21.8	6	企業6社	ハソニックフックノリコーポ レーション	甲府工業高校			10	
合計									20	
その他の活動										
共同研究	4月8日	3月24日	200	企業2社	岩間農機・ヤンマー農機	甲府工業高校	機械科	3	16	課題研究部活動
二足歩行ロボット製 造	6月22日	11月13日	2	企業1社	アイメック	甲府工業高校	機械科	3	77	課題研究
意見交換会	1月28日					甲府工業高校				
実践発表会	2月13日					甲府工業高校				
成果報告会	11月27日		1	100 アイメッセ	教員、生徒、企業、行政	各校			200	
合計									283	

産業財産権標準テキストの有効活用に関する知的財産教育推進協力校事業

電子科

1. はじめに

電子科では、20年度「産業財産権標準テキストの有効活用に関する知的財産教育推進協力校」に応募し協力推進指定校に認定されました。全国で23校の工業高校・専攻科が協力校として活動を行っています。本校電子科では、「知的財産権教育」と「創造力育成」を目指し、発想力を鍛え創意工夫する力、課題解決能力の育成に力を入れていきたいと考えています。

2. 趣旨

「知的財産立国」の実現のためには、質の高い知的財産を生み出す仕組みを整え、知的財産を適切に保護し、社会全体で活用する環境を整備することが重要であり、知的財産の創造・保護・活用の好循環「知的創造サイクル」を早く大きく回してゆくことが必要です。この知的創造サイクルを支える人材の育成・確保は急務であり、学校教育を通じた幼少期からの知的財産マインドの涵養、大学等の高等教育機関における知的財産制度に明るい人材の育成等、国民全体への知的財産制度に対する意識の醸成と知識の向上を図るための環境整備が重要であります。知的財産推進計画2007においては、知財人材の育成の重要性とともに、地域産業の基盤を支える人材を輩出させる役割を担った学校と地域産業界の連携による知的財産人材育成の推進が謳われています。このため、全国の工業高等学校・商業高等学校・農業高等学校・高等専門学校から「産業財産権標準テキスト」を活用した知的財産教育推進協力校を選定し、同校での活動状況を通じて、知的財産教育を行う学校をとりまく地域の支援、地域連携のほか、専門教育機関間連携による知的財産教育の広がりやその効果、学校や地域に与える影響を調査研究することによって、今後の教育機関における知的財産教育の普及と定着を促進することを目的に行います。また、その研究成果を調査報告書として広く全国各地の教育機関に提供します。

3. 本年度活動内容

4月～5月 1年電子科、工業技術基礎の時間に産業財産権標準テキストを使った知的財産教育の概要を説明し特許、意匠、商標について学習した。

6月26日「山梨県知的所有権センター特許情報活用支援アドバイザー」伊藤哲雄氏を講師に迎え、講演を実施、企業や個人における発明(技術の創造)の事例を中心に説明を受けた。生徒達は、中学生が特許を取得していることに驚きと関心を示してくれた。この内容について感想やレポートを提出させた。

8月 夏季休業中の課題として「知的財産の検索、観察」と題したレポートを提出させ、身の回りの様々な物に目を向けさせ、知的財産権の活用を探求する機会を深めた。

1月 知財制度について技術の向上及び知財制度の相互普及についてまとめをおこす。

知的財産管理技能検定3級テキストを使用した学習。

4. 教育効果

本年度、進協力校として活動を行った。生徒の関心は、予想を超え興味・関心を示してくれた。特に産業財産権法についての特許法、実用新案法、意匠法、商標法について理解することができた。また、レポートの内容も各自、良く調べてまとめてあった。今後の教育活動に活かされると思う。

5. おわりに

来年度は、この経験を更に進捗させた取り組みを行っていきたい。

- ・ 電子科から全科への取り組み。知財教育を念頭にいた課題研究ものづくり。アイデアなど創意工夫する取り組み。
- ・ 機械研究部、無線部での知財教育の普及等、知財教育の取り組みを広範囲で行っていく。

高大連携事業（神奈川県立工科大学との協働研究） 電子科

1. はじめに

電子科では課題研究の一つのテーマとして、平成13年度より神奈川県立工科大学との高大連携を進めている。一般的な高大連携は、大学の先生による出前講義や集中型のスクーリングによる授業や実習の形式で行われ、高校生と大学の先生との関わりが主体である。本連携は、上記のような講義形式の高大連携ではなく、高校生と大学生が直接協働研究を行う形式の高大連携である。大学生と課題研究グループの生徒たちが直接的な交流および情報機器等を通しての間接的な交流を行うことにより、生徒の問題解決に対する動機付けおよび技術に対する興味関心の向上に大きな効果が得られた[1]。

2. これまでの連携内容（3年間）

飛行船の自立飛行（ホバリング）（平成18年度）、飛行船の自立飛行（ホバリングおよび旋回）（平成19年度）、お掃除ロボットの製作（平成20年度）の各テーマで連携を行った。

3. 情報機器の活用

メーリングリスト、WWW、インターネットTV会議システム等の情報機器を有効に活用し、距離的、時間的制約を克服して連携を行う。週に1度のTV会議により、お互いの進行状況を確認し、問題点等の検討を行った[2]。

4. 年間スケジュール

研究準備期間（4月～6月）は、主に電子メールにより大学生と高校教員間で研究テーマの準備に関する情報交換を行う。この期間に基本原理等の基礎学習などを両校のメンバーが行う。7月初旬に、大学生と高校生が直接会って研究課題に関する情報交換を実施し、大学生が先行して検討した研究テーマの提案とその試作システムのデモンストレーションなどを行ない、テーマ設定に関して高校生・大学生が議論する。この検討会は、大学生が主体であり高校教員・大学教員はアドバイザー的な存在である。また、大学生から高校生に対してテーマに関する技術要素の指導も行ってもらった。最終目標に到達するための学習内容やその設計および製作に関する分担は、各グループの基礎技術によって配分するが、大学生は設計および試作が中心であり、高校生は製作的な内容を中心に担当している。

5. 教育効果

高校生にとっては技術的レベルの高い課題を、大学生の指導により達成でき、技術に対する興味関心の向上につながる。協働で研究を進めることにより、現在不足していると言われるコミュニケーション能力の向上も高められると考えている。また、大学生と交流することにより、高校生の進路選択にも影響を与えている。

6. おわりに

今後もこの高大連携を積極的に推進し、技術に関する興味関心の向上をおよび教育上の効果を見出していきたい。また、高大連携による学習効果をさらに考察する予定である。今後は、ネットワークを活用したe-learningなどの検討も行いたい。

参考文献

[1]金井徳兼,手塚芳一,中澤透:“工業高校の協力による卒業研究”,工学教育,20-23, Vol.50(3), (2002).

[2]金井徳兼,中澤透,三輪基敦,楠秀樹:“ネットワーク会議システムを応用した高校大学連携プロジェクトの実践”,ITを活用した教育シンポジウム講演論文集,31-34,第1巻(2006).

韓国姉妹校国際交流事業

姉妹校交流を顧みて

清州機械工業高校との姉妹校交流も今年で12年目を迎えた。13年前、現本校同窓会監事で、当時の校長である小澤傳吾先生が国際交流行事として立ち上げたものである。交流締結に向けての環境調査として、韓国清州機械工業高校を訪問したのが始まりのようである。以来、隔年ごとに相互に訪韓、来日を繰り返すかたちで生徒たちは、先にお世話になった家庭にお互いにホームステイをしあいながら交流を深めてきた。

その間、本校では創立80周年、そして昨年度は創立90周年を迎え、創立記念式典への招待や親善交流野球大会、そしてサッカー大会等を催したこともあった。一方、韓国では国を上げて工業教育の強化に努めており、清州機械工業高校の実習機器や施設設備の拡充が図られるなど、交流開始当時の施設設備とは一変しており、実に素晴らしい学習環境及び教育システムになっていた。

今年度は、10月14日から4泊5日の日程で、こちらからの訪韓交流となる。今回の訪問には、これまで行なわれている交流に新たな企画を盛り込む準備として、現地視察とその事業契約を取り交わす狙いもあったのです。その企画とは、本校生徒による韓国修学旅行清州機械工業高校訪問交流であります。この計画については、一昨年から検討を開始し、先方の金洪來校長先生をはじめ、数多くの先生方と調整を重ねてきたものである。そして、ついに訪問の2日目(2008,10,15)、清州機械工業高校の校長室において、本校の戸田泰明校長と清州機械工業高校の金洪來校長先生との間で、平成21年度修学旅行訪問交流に係る依頼と受諾について正式な取り交わしが成されました。その概要は、スポーツ交流及び清州機械工業高校の授業参観・実習体験交流であります。この交流の狙いとしては、韓国の儒教文化から学ぶ情操・国際観の育成、及び清州機械工業高校の授業参観や実習体験を通じての、生徒たちの向学心を喚起することにあることは想像に難くない。

ここで、清州機械工業高校の沿革を簡単に紹介する。1946年創立で、精密機械科、電子機械科、機械設備科、航空科、電気科、電子科の6学科、1学年13学級、総学生数1300人程度で、280名収容可能な学生寄宿舎を備えた高校である。

冒頭に紹介したように、韓国の国策として工業教育に力を注いでいることが伺えるものに、清州機械工業高校の敷地内に、忠清北道・清州市の教育資料館があり、生徒達が、韓国教育の歴史を間近で学べるようになっている。また、清州機械工業高校の生徒に限らず、韓国の工業高校生ほぼ全員が、学費免除の奨学制度を受けているとのことである。さらに、進路についても、日本以上に高学歴志向の強い韓国で、工業高校からの大学進学を積極的に推奨し、受験対策にも力を入れている。高度な知識、技術を養成する狙いがはっきり伺える証と言える。ちなみに、清州機械工業高校の大学進学率は85%程である。

来年度(平成21年度)は、いよいよ韓国修学旅行交流が開始される。参加する生徒には、是非、清州機械工業高校の生徒たちと、直に語らい、直に学び教え合い、そして共生的な競い合いをして欲しいと思う。そこで体得した新たな視点と世界観で、今までの自分から一歩踏み出し、グローバルな視野で自己研鑽に努めてもらいたい。

教高第 号
平成 1 9 年 3 月 日

文部科学省 初等中等教育局長 殿

都道府県等教育委員会名 山梨県教育委員会
所 在 地 山梨県甲府市丸の内
一丁目 6 - 1
代 表 者 職 氏 名 廣 瀬 孝 嘉 ㊦

新時代に対応した高等学校教育改革推進実践研究計画書を提出します。

実 践 研 究 計 画 書

1 新時代に対応した高等学校教育改革推進協議会について

(1) 実践研究課題

「多様化した生徒の自己実現をサポートする工業教育の充実・改善」
少子化や高学歴志向の影響で工業科単独校減少傾向にあり、入学してくる生徒のニーズも多様になっている。こうした変化に対応するため、より高度な専門教育、工業系大学の進学を目指した教育、授業改善及び部活動の活性化などを通して、生徒の自己実現をサポートするための工業教育の充実・改善を進める。

(2) 実践研究の内容

学校評価や地元産業界のニーズ及び卒業生の実態調査をもとに、将来を見据えてた生徒の自己実現の方法について研究する。具体的には「授業研究、特に専門教科の進化を図る教育」、「工業系大学を目指した教育」、「部活動の強化」を実現するため、以下の三点について、研究・実践する。

(1) 教育課程の開発について

- ①自由選択科目の設定（12単位）に向けた研究と実践
- ②履修単位数の増加（現行90単位を94単位へ）に向けた研究と実践
- ③2学期制の実施に向けた研究と実践
- ④企業実習の検討と教育課程上の位置づけの研究と実践
- ⑤教科教育の専門家を招いての授業研究の実施（工業系高校5校）

(2) 高校入試への対応について

- ①現行の小学科単位の募集から一括くくり募集への検討
- ②前期募集（自己推薦）の選考方法の検討

(3) 学校組織の改善について

- ①生徒の自己実現をサポートするために、現行の縦型の組織から、プロジェクト型の学校運営組織の研究と新組織への改編
- ②学校評価結果を学校運営に生かすための手法及び組織の研究と実践

また研究成果の評価については、就職先及び進学先へのアンケートなどによる追跡調査や学校評価をもとに行うとともに、より精度の高い評価方法と評価結果の活用についても工夫改善していく。具体的には以下の項目を指標として検証していく予定である。

○ 専門教科の深化について

- ①ものづくりに関する各種大会等への参加と成績
- ②各種資格の取得状況
- ③就職内容及び就職先での実績（卒業後の追跡調査を行う）

- 工業系大学進学を目指した教育について
 - ① 国立大学への進学者数
 - ② 大学進学後の中退者の減少（追跡調査を行う）
 - ③ 大学進学者の大学院進学率（追跡調査を行う）
- 部活動の強化について
 - ① 成績不振者の減少
 - ② 全国レベルの大会出場と成績

(3) 新時代に対応した高等学校教育改革推進協議会の構成

氏 名	勤務先・職名等
榊原 禎宏	山梨大学教育人間科学部 教授
水口 義久	山梨大学大学院 教授
一瀬 茂夫	山梨県経営者協会 専務理事
戸田 泰明	県立甲府工業高校 校長
手塚 芳一	県立甲府工業高校 教頭
時田 透	県立甲府工業高校 教諭
土屋 淳	県立甲府工業高校 P T A 会長
小池 逸朗	高校教育課 指導主事
遠藤 清文	高校教育課 指導主事

2 新時代に対応した高等学校教育改革推進実践研究地域について

(1) 新時代に対応した高等学校教育改革推進実践研究地域の設定

地 域 名	学 校 名
山 梨 県 (県下全域)	山梨県立甲府工業高等学校

(2) 学校の特色及び生徒の実態

今年度（平成 19 年）創立 90 周年を迎え 2 万 5 千余人の卒業生をもつ県内を代表する工業高校である。「質実剛健」を校訓に「技術者となる前に人間となれ」を信条にし、専門教育や部活動をとおして、技術・技能の習得のみならず人間性の育成に力をいれた教育を実践している。部活動も活発で、野球部は 3 年連続して甲子園に出場している。また弓道部、自転車、新体操、ボクシング、卓球が全国大会へ出場している。

進学と就職がほぼ同数であるが、4 年生大学への希望者が増加する傾向にある。特に専門高校卒をもつ国公立大学が増えてきており、国公立大学を希望する生徒への対応が喫緊の課題となっている。

* 甲府工業高校事務局

氏 名	分掌職名等
沓間 正	教務主任
中沢 稔	進路指導主事
山西 保久	生徒会指導主任
大野 政彦	学科主任代表（電子科主任）

文部科学省 初等中等教育局長 殿

都道府県等教育委員会名 山梨県教育委員会
所 在 地 山梨県甲府市丸の内
一丁目6-1
代 表 者 職 氏 名 廣 瀬 孝 嘉 ㊤

新時代に対応した高等学校教育改革推進実践研究計画書を提出します。

実 践 研 究 計 画 書

1 新時代に対応した高等学校教育改革推進協議会について

(1) 実践研究課題

「多様化した生徒の自己実現をサポートする工業教育の充実・改善」

少子化や高学歴志向の影響で工業科単独校は減少傾向にあり、入学してくる生徒のニーズも多様になっている。こうした変化に対応するため、より高度な専門教育、工業系大学の進学を目指した教育、授業改善及び部活動の活性化などを通して、生徒の自己実現をサポートするための工業教育の充実・改善を進める。

(2) 実践研究の内容

学校評価や地元産業界のニーズ及び卒業生の実態調査をもとに、将来を見据えた生徒の自己実現を図るための「工業系大学進学を目指した教育」、「部活動の活性化」を推進する。以下について、研究・実践する。

(1) 教育課程の開発について

- ①自由選択科目の設定(1.2単位)に向けた研究と実践
- ②履修単位数の増加(現行9.0単位を9.4単位へ)に向けた研究と実施
- ③企業実習の検討と教育課程上の位置づけの研究と実践
- ④基礎・基本の理解とわかりやすい授業の実践

(2) 学校組織の改善について

- ①生徒の自己実現をサポートするために、現行の縦型の組織から、プロジェクト型の学校運営組織の研究と新組織への改編
- ②学校評価結果を学校改善へ生かすための手法及び組織の研究と実践

(3) 部活動の指導改善について

- ①効率的な指導方法の研究

また、研究成果の評価については、就職先及び進学先へのアンケートなどによる追跡調査や学校評価をもとに行うとともに、より精度の高い評価方法と評価結果の活用について工夫改善していく。具体的には以下の項目を指標として検証していく予定である。

○専門教科の深化について

- ①ジュニアマイスター取得者の推移
- ②技能士検定合格者数(3級及び2級)の推移
- ③学科の内容に沿った就職及び就職後の実態(卒業後の追跡調査を行う)

○工業系大学進学を目指した教育について

- ①国公立大学への進学者数の推移
- ②進学後の中退者の減少(追跡調査を行う)
- ③大学院進学者数の推移(追跡調査を行う)

○部活動の活性化について

- ①退部者の減少
- ②全国レベルの大会出場と成績

(3) 新時代に対応した高等学校教育改革推進協議会の構成

氏名	勤務先・職名等	勤務先所在地
水口 義久	山梨大学 大学院教授	甲府市武田 4-4-37
堀井 啓幸	山梨県立大学 人間福祉学部教授	甲府市飯田 5-11-1
一瀬 茂夫	山梨県経営者協会 専務理事	甲府市丸の内 1-9-11
戸田 泰明	県立甲府工業高校 校長	甲府市塩部 2-7-1
手塚 芳一	県立甲府工業高校 教頭	甲府市塩部 2-7-1
時田 透	県立甲府工業高校 教諭	甲府市塩部 2-7-1
宮川 武	県立甲府工業高等学校 PTA 会長	甲府市塩部 2-7-1
井上 耕幸	高校教育課 指導主事	甲府市丸の内 1-6-1
手塚 幸樹	高校教育課 指導主事	甲府市丸の内 1-6-1

2 新時代に対応した高等学校教育改革推進実践研究地域について

(1) 新時代に対応した高等学校教育改革推進実践研究地域の設定

地域名	学校名
山梨県 (県下全域)	山梨県立甲府工業高等学校

(2) 地域の特色 (各地域ごとに記入)

山梨県は、高等学校数が30あまりと小規模であるので、山梨県全体を一地域として「新時代に対応した高等学校教育改革推進実践研究地域」とする。特色については、工業高校の減少など、1の(1)に記した通り。

(3) 実践研究課題 (各地域ごとに記入)

山梨県全域を「実践研究地域」とするので、1の(1)と同じ。

(4) 研究委員会の構成 (各地域ごとに記入)

「新時代に対応した高等学校教育改革推進協議会」の構成と同じ

(5) 実践研究の内容 (各地域ごとに記入)

山梨県全域を「実践研究地域」とするので、1の(2)と同じ。

(6) 新時代に対応した高等学校教育改革推進実践研究地域における各学校の概要

- ①学校名・校長名 山梨県立甲府工業高等学校 校長 戸田泰明
- ②所在地・電話番号 〒400-0026 甲府市塩部 2-7-1 055-252-4896
- ③学級数・生徒数 (高等学校)

学 科	年 次	1	2	3
	学級数	7	7	7
生 徒 数	男	263	249	227
	女	17	25	20
	計	280	274	247
教員数		72		

(7) 学校の特色及び生徒の実態 (各学校ごとに記入)

昨年、創立90周年を迎え2万5千余人の卒業生をもつ県内を代表する工業高校である。「質実剛健」を校訓に「技術者となる前に人間となれ」を信条にし、専門教育や部活動をとおして、技術・技能の習得のみならず人間性の育成に力を入れた教育を実践している。部活動も活発で、野球部は過去13回甲子園に出場している。また弓道部、自転車、新体操、ボクシング、卓球が全国大会へ出場している。

進学と就職がほぼ同数であるが、4年制大学への希望者が増加する傾向にある。特に専門高校卒をもつ国公立大学が増えてきており、国公立大学を希望する生徒への対応が喫緊の課題となっている。

3 文部科学省との連絡担当者 (所属, 氏名, 職名, 電話番号)

所 属 山梨県教育庁高校教育課 氏 名 井上耕史 職 名 指導主事
 055-237-1111 (代)内線) 8338 (直通) 055-223-1766 (FAX) 055-223-1768